

データヘルス計画

第3期計画書

最終更新日：令和 6 年 03 月 28 日

池友会健康保険組合

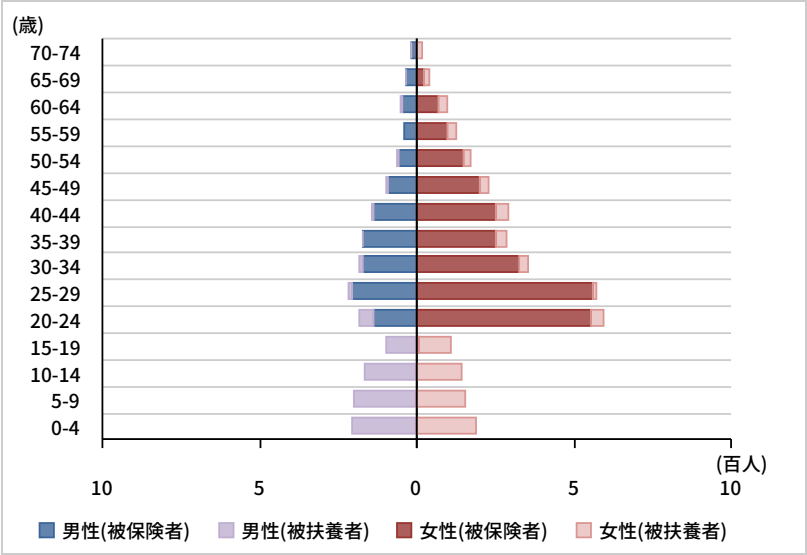
STEP 1 - 1 基本情報

組合コード	91446		
組合名称	池友会健康保険組合		
形態	単一		
業種	医療、福祉		
	令和6年度見込み	令和7年度見込み	令和8年度見込み
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保 険者を除く	3,660名 男性30.8% (平均年齢38.14歳) * 女性69.2% (平均年齢34.89歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *
特例退職被保険 者数	0名	-名	-名
加入者数	5,302名	-名	-名
適用事業所数	8カ所	-カ所	-カ所
対象となる拠点 数	8カ所	-カ所	-カ所
保険料率 *調整を含む	102‰	-‰	-‰

		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		令和6年度見込み		令和7年度見込み		令和8年度見込み	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	0	0	-	-	-	-
	保健師等	0	0	-	-	-	-
事業主	産業医	8	0	-	-	-	-
	保健師等	14	0	-	-	-	-
		第3期における基礎数値 (令和4年度の実績値)					
特定健康診査実施率 (特定健康診査実施者数÷ 特定健康診査対象者数)		全体	1,112 / 1,319 = 84.3 %				
		被保険者	1,080 / 1,127 = 95.8 %				
		被扶養者	32 / 192 = 16.7 %				
特定保健指導実施率 (特定保健指導実施者数÷ 特定保健指導対象者数)		全体	67 / 127 = 52.8 %				
		被保険者	66 / 124 = 53.2 %				
		被扶養者	1 / 3 = 33.3 %				

		令和6年度見込み		令和7年度見込み		令和8年度見込み	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	11,007	3,007	-	-	-	-
	特定保健指導事業費	6,227	1,701	-	-	-	-
	保健指導宣伝費	35	10	-	-	-	-
	疾病予防費	19,078	5,213	-	-	-	-
	体育奨励費	0	0	-	-	-	-
	直営保養所費	0	0	-	-	-	-
	その他	0	0	-	-	-	-
	小計 …a	36,347	9,931	0	-	0	-
	経常支出合計 …b	1,775,597	485,136	-	-	-	-
	a/b×100 (%)	2.05		-		-	

令和6年度見込み



令和7年度見込み



令和8年度見込み



男性（被保険者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	0人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	139人	25～29	205人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	170人	35～39	171人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	135人	45～49	94人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	59人	55～59	39人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	45人	65～69	36人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	20人			70～74	-人			70～74	-人		

女性（被保険者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	3人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	557人	25～29	559人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	326人	35～39	249人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	254人	45～49	201人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	147人	55～59	99人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	68人	65～69	23人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	1人			70～74	-人			70～74	-人		

男性（被扶養者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	205人	5～9	201人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	166人	15～19	96人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	45人	25～29	14人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	9人	35～39	2人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	3人	45～49	5人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	3人	55～59	0人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	3人	65～69	2人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	2人			70～74	-人			70～74	-人		

女性（被扶養者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	189人	5～9	154人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	145人	15～19	100人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	38人	25～29	14人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	29人	35～39	36人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	42人	45～49	28人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	25人	55～59	28人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	30人	65～69	19人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	15人			70～74	-人			70～74	-人		

基本情報から見える特徴

被保険者の約70%が、女性である。
 全被保険者の約60%以上が、若年成人世代にあたる。
 健康保険組合では、顧問医や保健師等を擁していない。

STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

保健事業の整理から見える特徴

- ・被保険者への保険事業は充実しているが、被扶養者への保健事業が少ない。
- ・被扶養者の特定健診の受診率が低い。

事業の一覧

職場環境の整備	
加入者への意識づけ	
予算措置なし	健保ニュースの配布
個別の事業	
特定健康診査事業	特定健診（被保険者）
特定健康診査事業	特定健診（被扶養者）
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	被扶養者特定健康診査アンケート
疾病予防	生活習慣病予防健診（35歳～39歳）
疾病予防	付加健診
疾病予防	子宮頸がん健診
疾病予防	乳がん検診
その他	KenCoM
事業主の取組	

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1)事業分類	事業名	事業目標	対象者				事業費(千円)	振り返り			注2)評価
				対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
職場環境の整備												
加入者への意識づけ												
予算措置なし	2	健保ニュースの配布	加入者への健康意識の醸成	全て	男女	0～74	加入者全員		過去に配布資料の案までは作成したが、配布までは至らなかった。	該当なし	企画から配布までの具体的なスケジュールを早期に立案し、実行していく必要がある。	1
個別の事業												
特定健康診査事業	3	特定健診（被保険者）	特定健診の受診率向上、被保険者の健康維持	全て	男女	40～74	被保険者,基準該当者		時期：通年 状況：受診者数1,027名（受診率97.0％）	事業主の実施する労安衛法の定期健康診断と併せて実施することにより、求職者を除き概ね全員の受診となっている。次年度も同水準の結果を維持できるようにしたい。	特になし	3
	3	特定健診（被扶養者）	特定健診の受診率向上、被扶養者の健康維持	全て	男女	40～74	被扶養者		時期：通年 受診者数：33名（受診率：17.9％）	年初のセット券送付に併せて結果提供案内することにより、早期の情報収集に努めた。	定期的に未受診者のリストアップ、受診勧奨を行い受診率を高める必要がある。	3
特定保健指導事業	4	特定保健指導	特定保健指導実施率の向上、生活習慣病有病者・予備軍の減少。	全て	男女	18～74	基準該当者		時期：通年 動機づけ支援：利用者39名（利用率46.4％） 積極的支援：利用者19名（利用率39.6％）	事業主が開設する医療機関で健康診査を実施→事業主の協力により当日初回面接を実施する等、受診を推進している。被扶養者の利用向上が必要。	制度についての啓蒙活動を継続して実施し、理解を深めることに努める。	3
保健指導宣伝	2,3	被扶養者特定健康診査アンケート	被扶養者へアンケート調査を実施することで、特定健診に対する被扶養者の実態を把握し、今後の受検率向上に生かす。。	全て	男女	40～74	基準該当者		実施していない。	特になし。	過年度にて調査実施済みであり、問題点は当時洗い出しているが、受診率が低調であるため再検討が必要。	1
疾病予防	3	生活習慣病予防健診（35歳～39歳）	胃部の疾病に対して、早期発見・治療目指す。	全て	男女	35～39	被保険者		時期：通年 状況：受診者数378名（受診率91.1％）	事業主の実施する労安衛法の定期健康診断と併せて実施することにより、求職者を除き概ね全員の受診となっている。	妊産婦期間を経過したものと及び長期療養者（メンタル疾患入院外等）に対して受診を促す対策が必要。	3
	3	付加健診	年齢に応じて健診を実施し、定期的な健康状況の把握を行うことにより、重症化予防を行う。	全て	男女	40～60	被保険者		時期：通年 状況：受信者数101名（受診率69.7％）	特になし	事業所と連携して啓蒙活動等を実施し、さらなる受診者の促進を図る必要がある。	3
	3	子宮頸がん健診	女性が多い職場の為、女性特有の子宮頸がんに注目し早期発見・治療による重症化予防を行う。	全て	女性	20～74	被保険者		時期：通年 状況：受信者数420名（受診率17.3％）	毎年受診、事業主他施設での単独受診を可能にしたことにより、受診者数の向上に努めている。	本人の所属する医療機関での受診を避ける傾向が見受けられる。	3
	3	乳がん検診	女性が多い職場の為、女性特有の子宮頸がんに注目し早期発見・治療による重症化予防を行う。	全て	女性	35～74	被保険者		時期：通年 状況：受信者数348名（受診率34.8％）	毎年受診、事業主他施設での単独受診を可能にしたことにより、受診者数の向上に努めている。 40-49歳未満へMMGに加え乳エコー、35-39歳未満へ乳エコーの実施	本人の所属する医療機関での受診を避ける傾向が見受けられる。	3
その他	8	KenCoM	加入者へ個別の情報提供を行うことで、加入者それぞれの健康意識の醸成を図る。情報提供による生活習慣病の重症化予防	全て	男女	18～74	基準該当者		毎月情報更新 医療機関受診情報及び健診情報の閲覧可能	携帯端末で手軽に医療機関受診情報や健診結果の閲覧ができ利便性が向上している。	利用者がまだまだ少ないため、啓蒙し利用者増加に努める必要がある。	2

注1） 1．職場環境の整備 2．加入者への意識づけ 3．健康診査 4．保健指導・受診勧奨 5．健康教育 6．健康相談 7．後発医薬品の使用促進 8．その他の事業

注2） 1．39%以下 2．40%以上 3．60%以上 4．80%以上 5．100%

事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同 実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
事業主の取組								

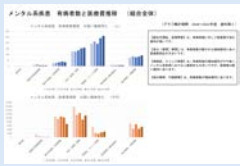
STEP 1-3 基本分析

登録済みファイル一覧

記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		医療費総額と1人当たり医療費	医療費・患者数分析	-
イ		年齢階層別医療費総額と1人当たり医療費	医療費・患者数分析	-
ウ		特定健診受診率と特定保健指導実施率の経年変化（組合全体）	特定健診分析	-
エ		生活習慣 本人家族男女比較	健康リスク分析	-
オ		傷病別医療費割合（本人男性）	医療費・患者数分析	-
カ		傷病別医療費割合（本人女性）	医療費・患者数分析	-

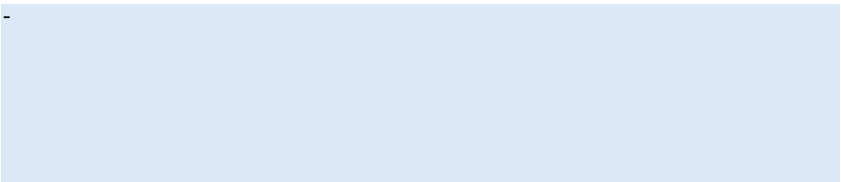
キ		傷病別医療費割合（家族男性）	医療費・患者数分析	-
ク		傷病別医療費割合（家族女性）	医療費・患者数分析	-
ケ		歯科医療費総額と1人当たり医療費	医療費・患者数分析	-
コ		生活習慣病有病者数と医療費推移（組合全体）	医療費・患者数分析	-
サ		循環器系疾患有病者数と医療費推移（組合全体）	医療費・患者数分析	-
シ		悪性新生物有病者数と医療費推移（組合全体）	医療費・患者数分析	-
ス		季節性疾患有病者数と医療費推移（組合全体）	医療費・患者数分析	-

セ



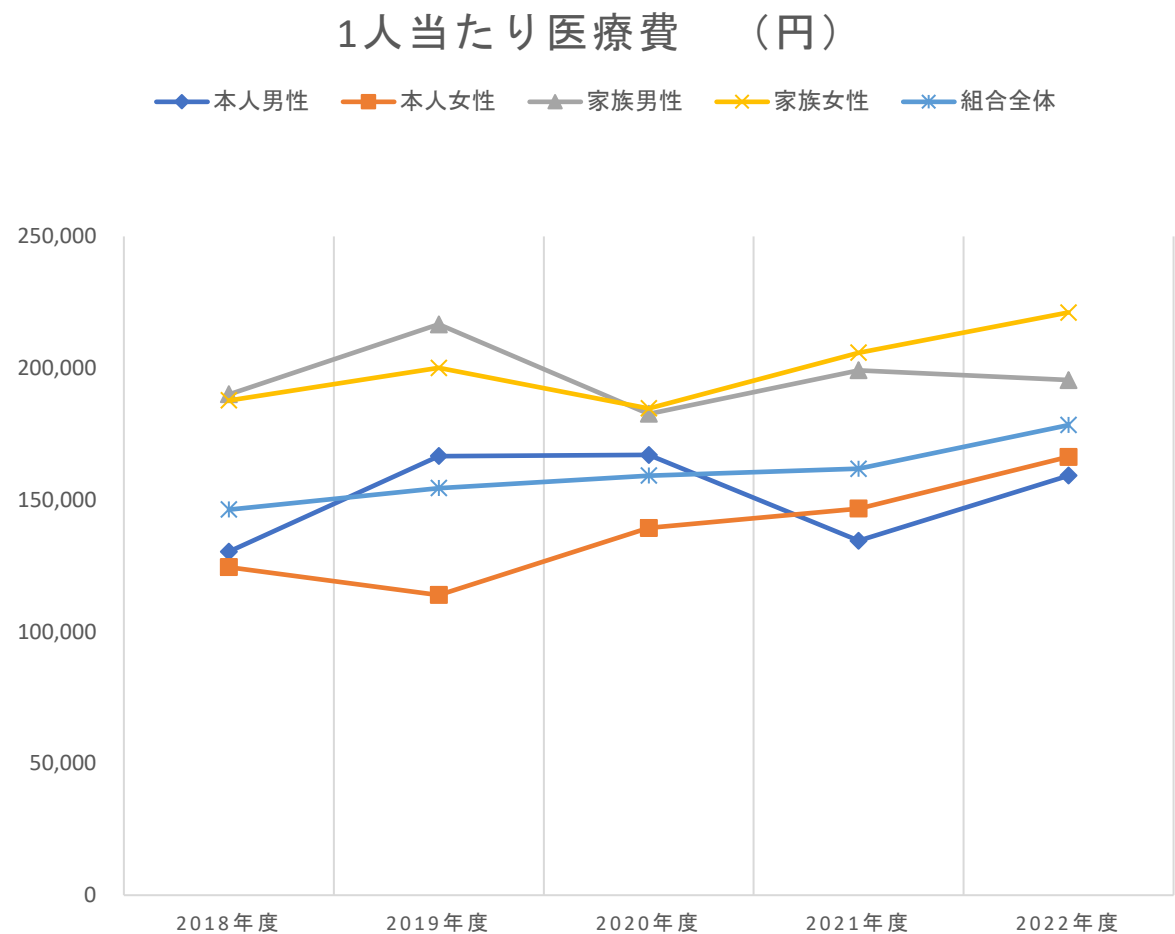
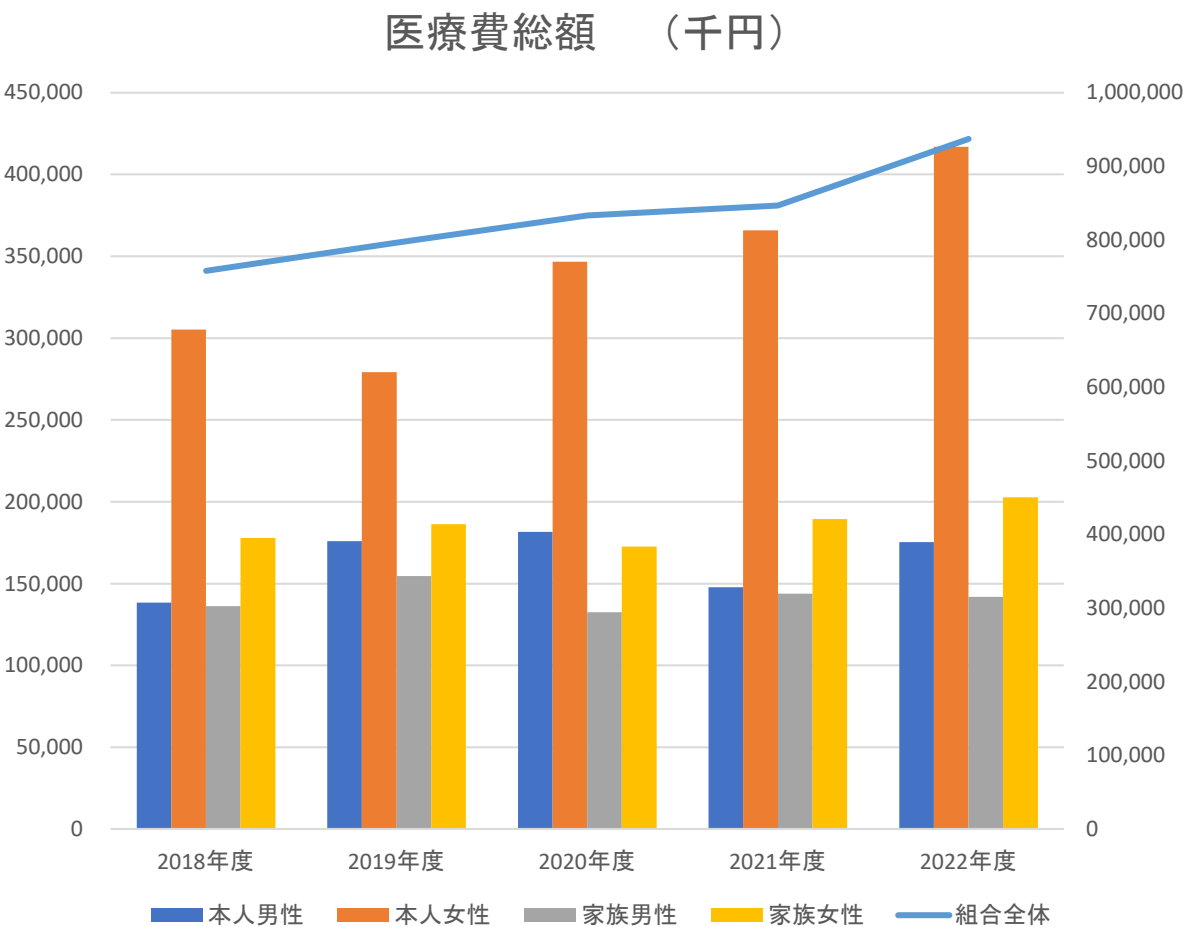
メンタル系疾患有病者数と医療費推移（組合全体）

医療費・患者数分析



医療費総額と1人当たり医療費

(グラフ集計期間：2018～2022年度)
(1人当たり医療費：2018～2022年度)



組合全体を見ると、医療費総額・1人当たり医療費ともに増加傾向にあります。

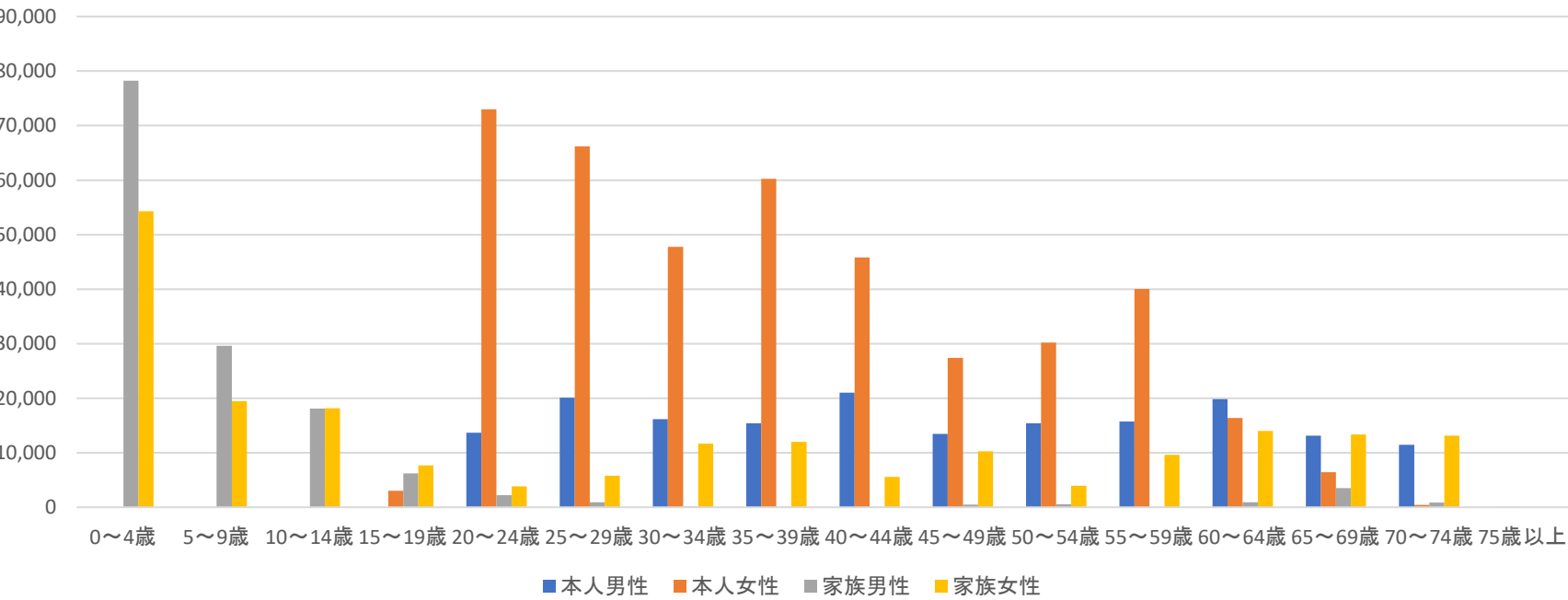
本人家族・男女別に見ると、家族男性以外は、医療費総額・1人当たり医療費ともに増加傾向にあります。

本人女性の増加傾向が強いです。

年齢階層別 医療費総額と1人当たり医療費

(グラフ集計期間：2022年度)

年齢階層別 医療費総額 (千円)



＜医療費総額が最も大きい年齢階層＞

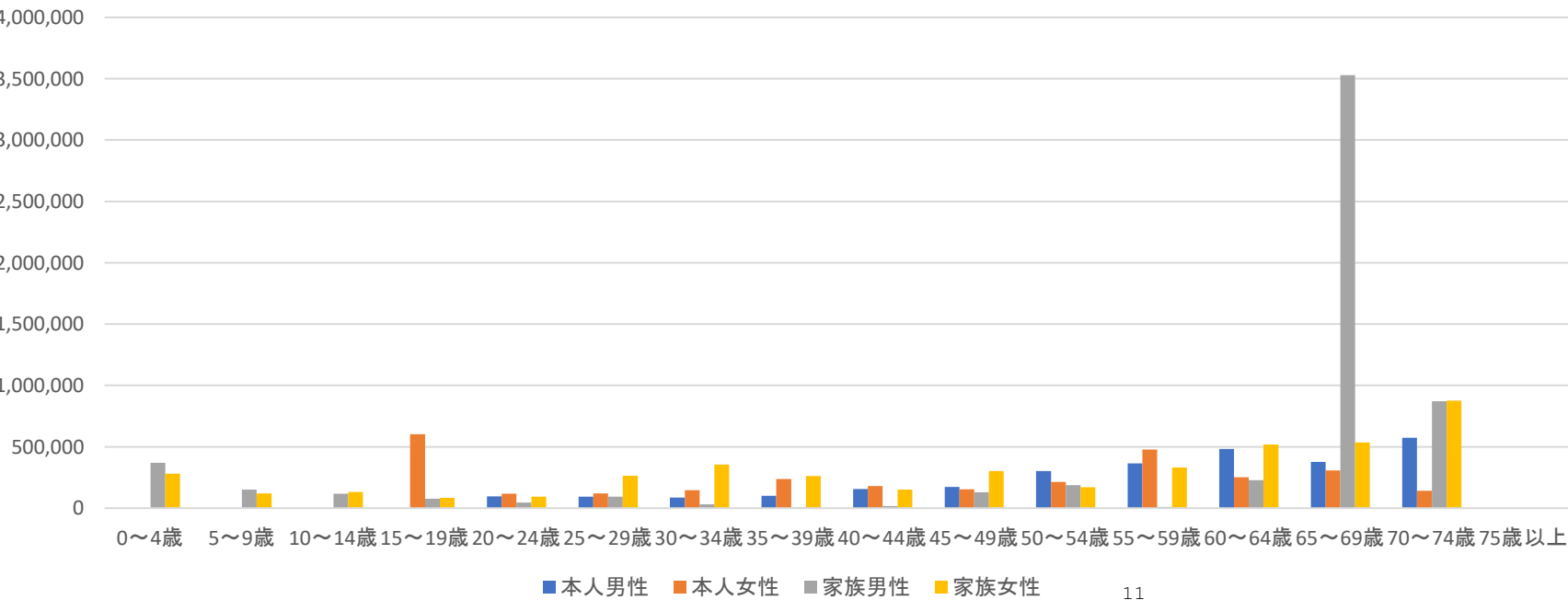
本人男性：40～44歳

本人女性：20～24歳

家族男性：0～4歳

家族女性：0～4歳

年齢階層別 1人当たり医療費 (円)



＜1人当たり医療費が最も大きい年齢階層＞

本人男性：70～74歳

本人女性：15～19歳

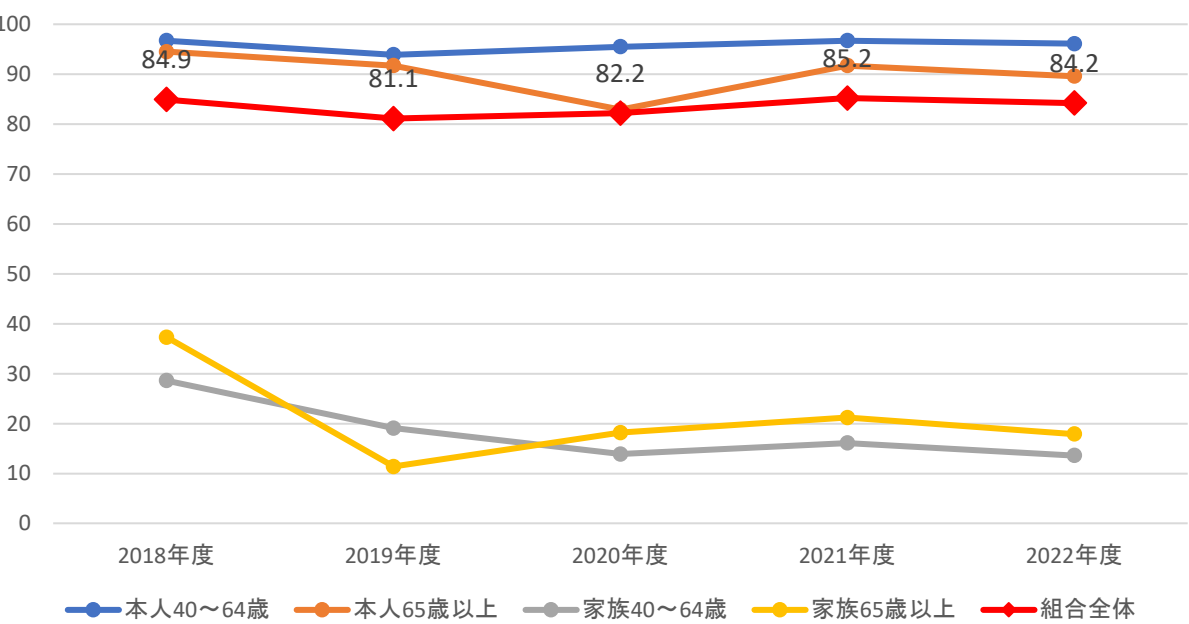
家族男性：65～69歳 ※対象者は1名。

家族女性：70～74歳

特定健診受診率と特定保健指導実施率の経年変化（組合全体）

（グラフ集計期間：2018～2022年度）

特定健診受診率 経年変化（％）



＜特定健診受診率＞

本人：過去5ヶ年度、80%以上を維持しています。
家族：2019年度以降、22%を下回っています。
組合全体：全保険者目標の70%を上回っています。

＜特定保健指導実施率＞

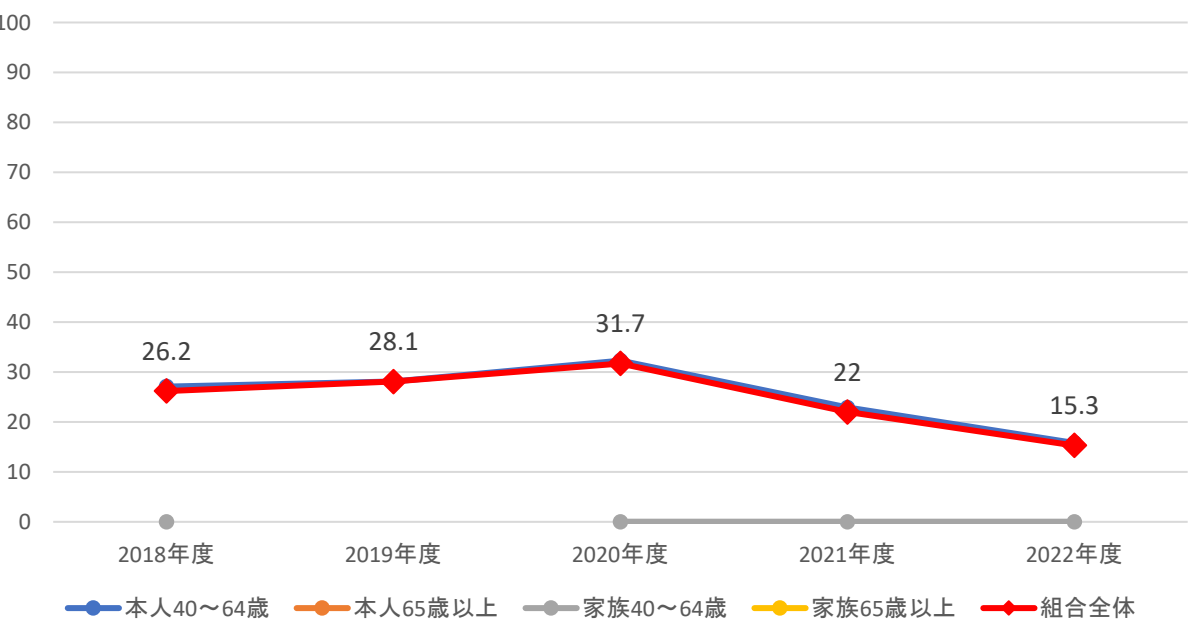
（積極的支援）

本人：実施率は低く、減少傾向にあります。65歳以上の対象者はいません。
家族：過去5ヶ年度、実績がありません。65歳以上の対象者はいません。

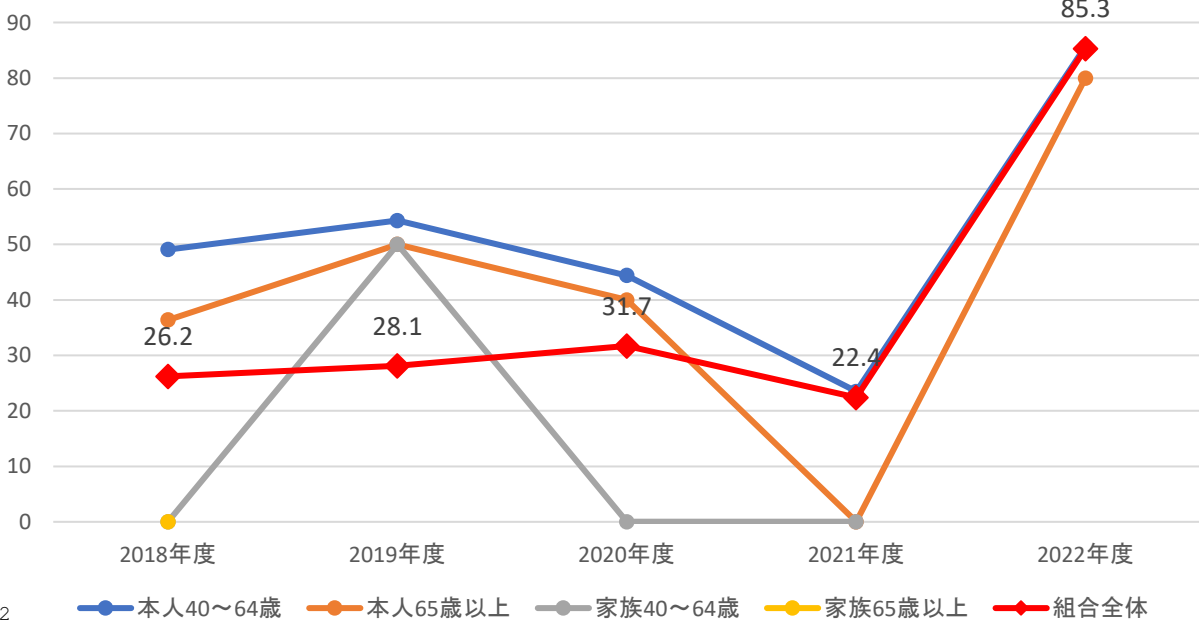
（動機付け支援）

本人：2022年度は、80%を超えています。
家族：2020年度以降、実績がありません。65歳以上の対象者はいません。

特定保健指導実施率【積極的支援】 経年変化（％）

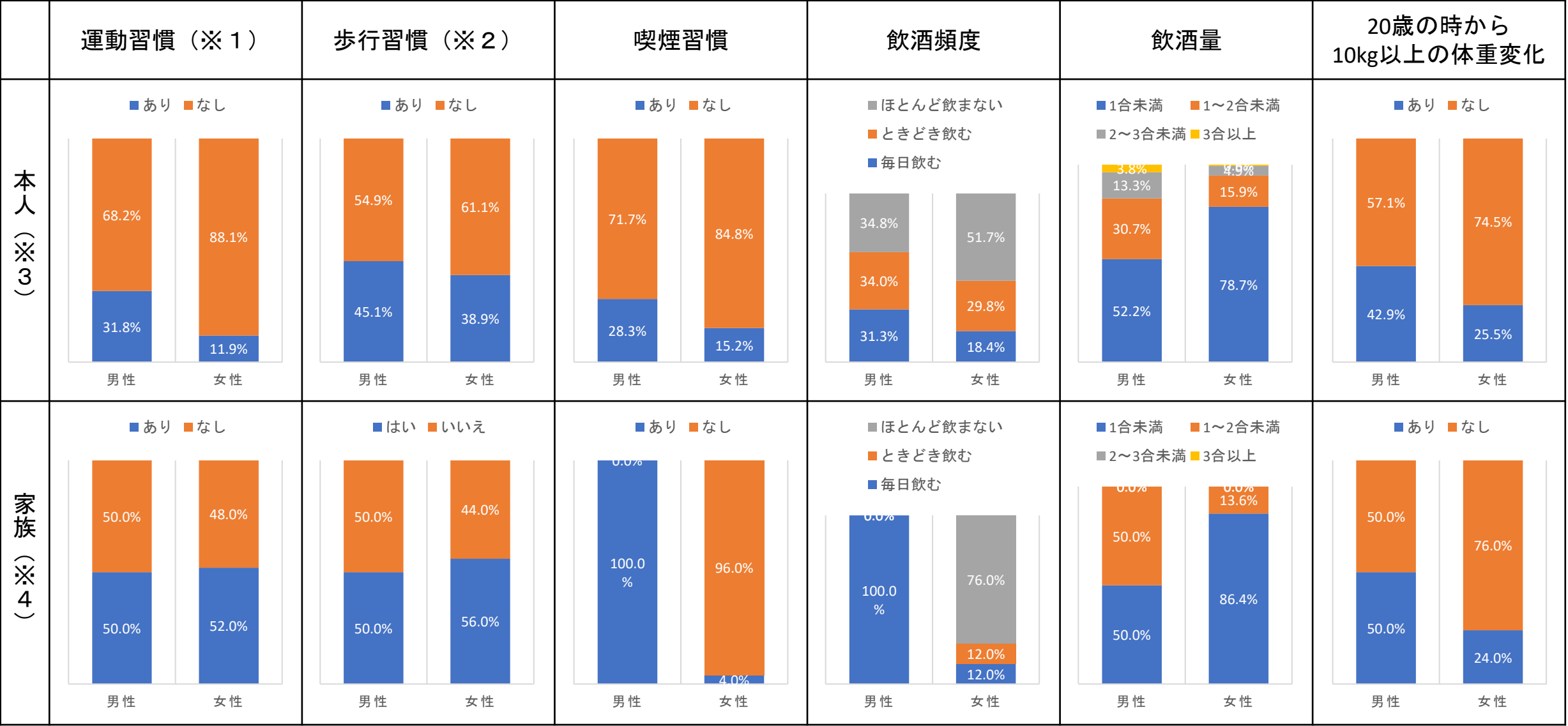


特定保健指導実施率【動機付け支援】 経年変化（％）



生活習慣 本人家族男女比較

(グラフ集計期間：2022年度 特定健診の問診回答より)



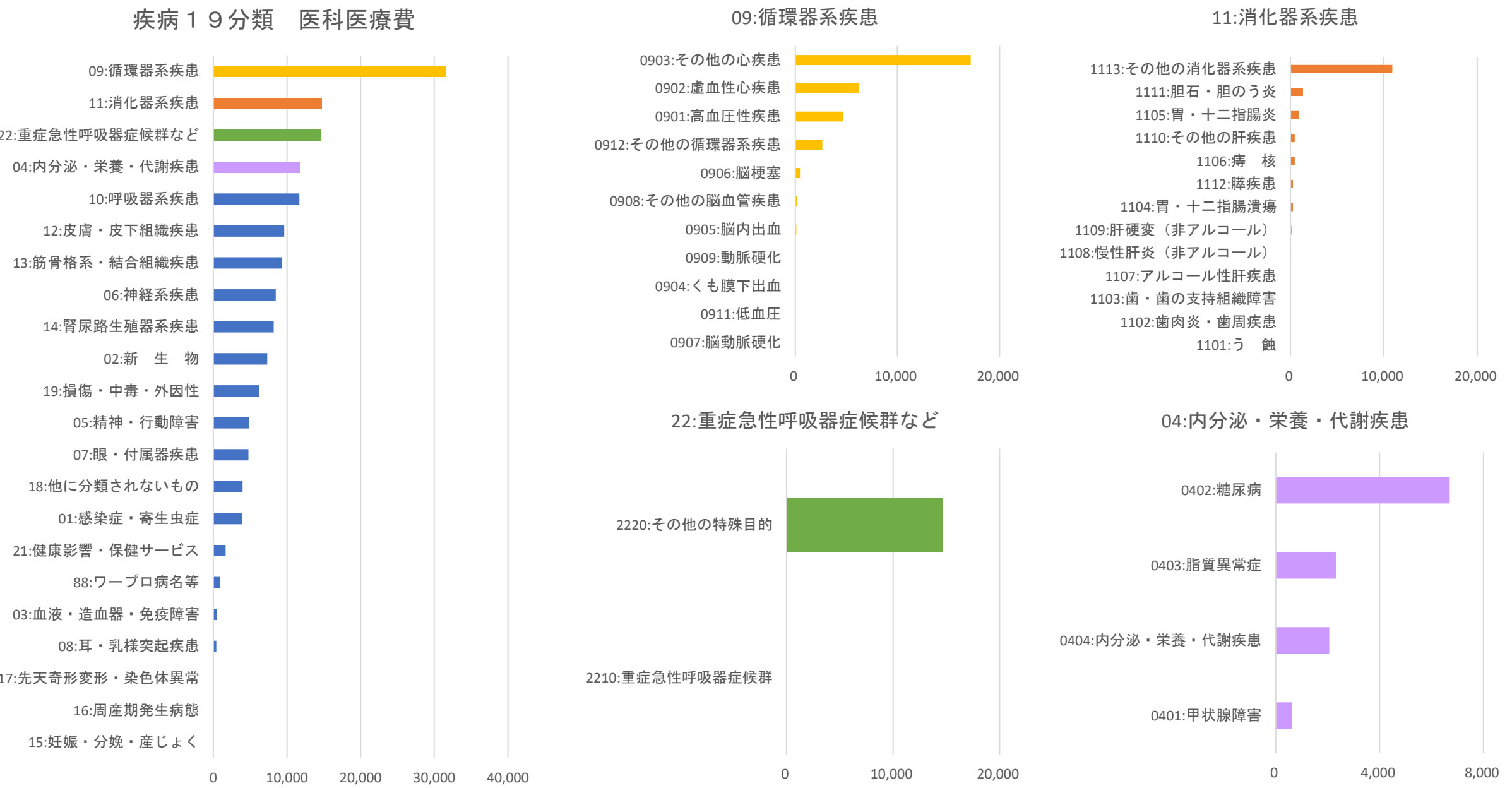
(※ 1) 1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施している
(※ 2) 日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施している
(※ 3) 男性368人／女性717人
(※ 4) 男性2人／女性25人

【運動習慣】 【歩行習慣】 は、家族より本人の割合が低く、本人女性の割合が最も低いです。
【喫煙習慣】 【飲酒頻度】 【飲酒量】 は、本人と家族いずれも、女性より男性の方が割合が高いです。
【20歳の時から10kg以上の体重変化】 は、本人と家族いずれも、女性より男性の方が割合が高いです。

傷病別医療費割合（本人男性）

（単位：千円）

（グラフ集計期間：2022年度）



本人男性を疾病 1 9 分類で見ると、【循環器系疾患】【消化器系疾患】【重症急性呼吸器症候群など】【内分泌・栄養・代謝疾患】の割合が高いです。

【循環器系疾患】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【その他の心疾患】【虚血性心疾患】【高血圧性疾患】が上位 3 位を占めます。

【消化器系疾患】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【その他の消化器系疾患】【胆石・胆のう炎】【胃・十二指腸炎】が上位 3 位を占めます。

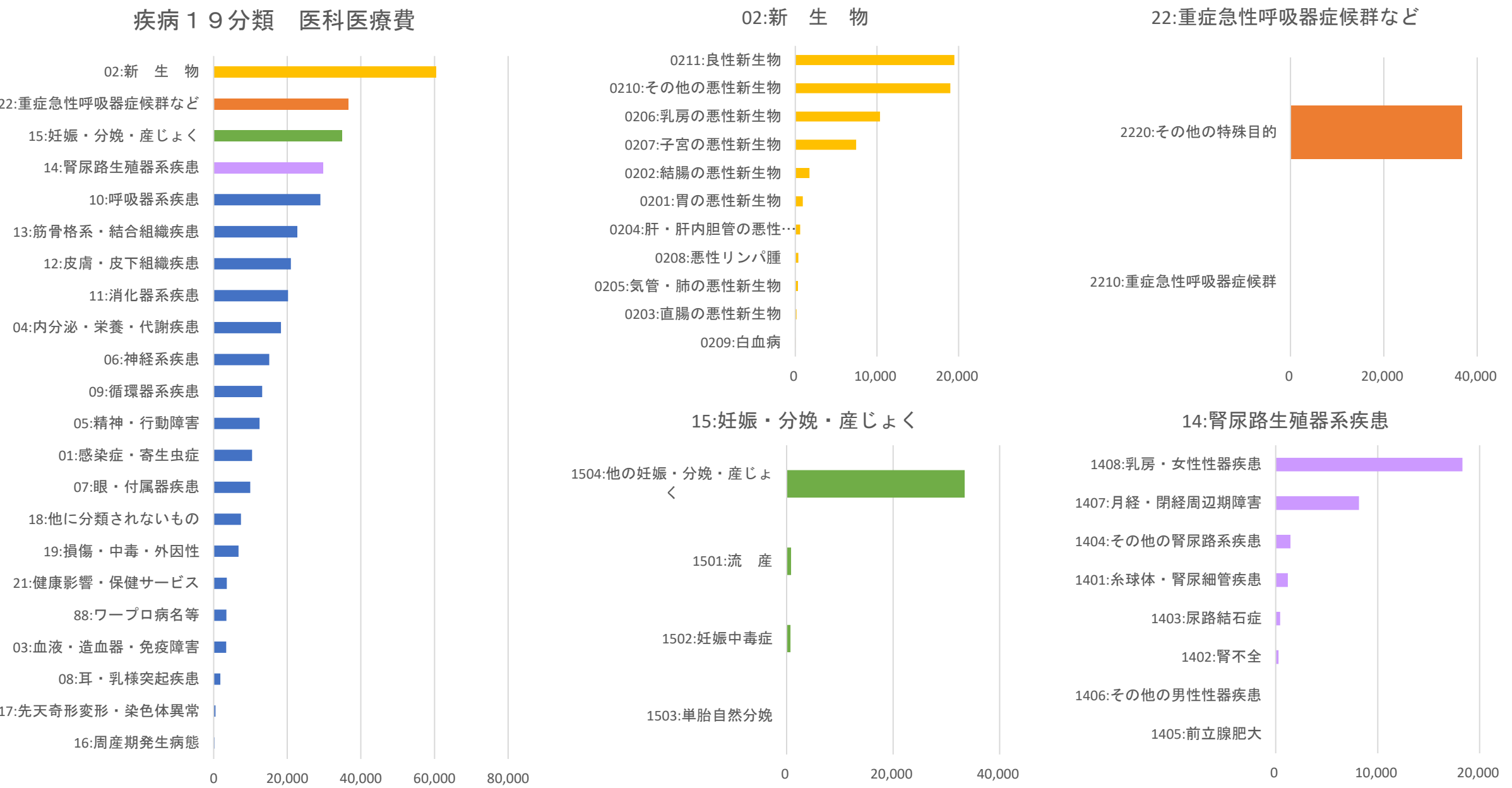
【重症急性呼吸器症候群など】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【その他の特殊目的】が全てを占めます。

【内分泌・栄養・代謝疾患】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【糖尿病】【脂質異常症】₁₄【内分泌・栄養・代謝疾患】が上位 3 位を占めます。

傷病別医療費割合（本人女性）

（単位：千円）

（グラフ集計期間：2022年度）



本人女性を疾病 1 9 分類で見ると、【新生物】【重症急性呼吸器症候群など】【妊娠・分娩・産じょく】【腎尿路生殖器系疾患】の割合が高いです。

【新生物】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【良性新生物】【その他の悪性新生物】【乳房の悪性新生物】が上位 3 位を占めます。

【重症急性呼吸器症候群など】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【その他の特殊目的】が全てを占めます。

【妊娠・分娩・産じょく】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【他の妊娠・分娩・産じょく】【流産】【妊娠中毒症】が上位 3 位を占めます。

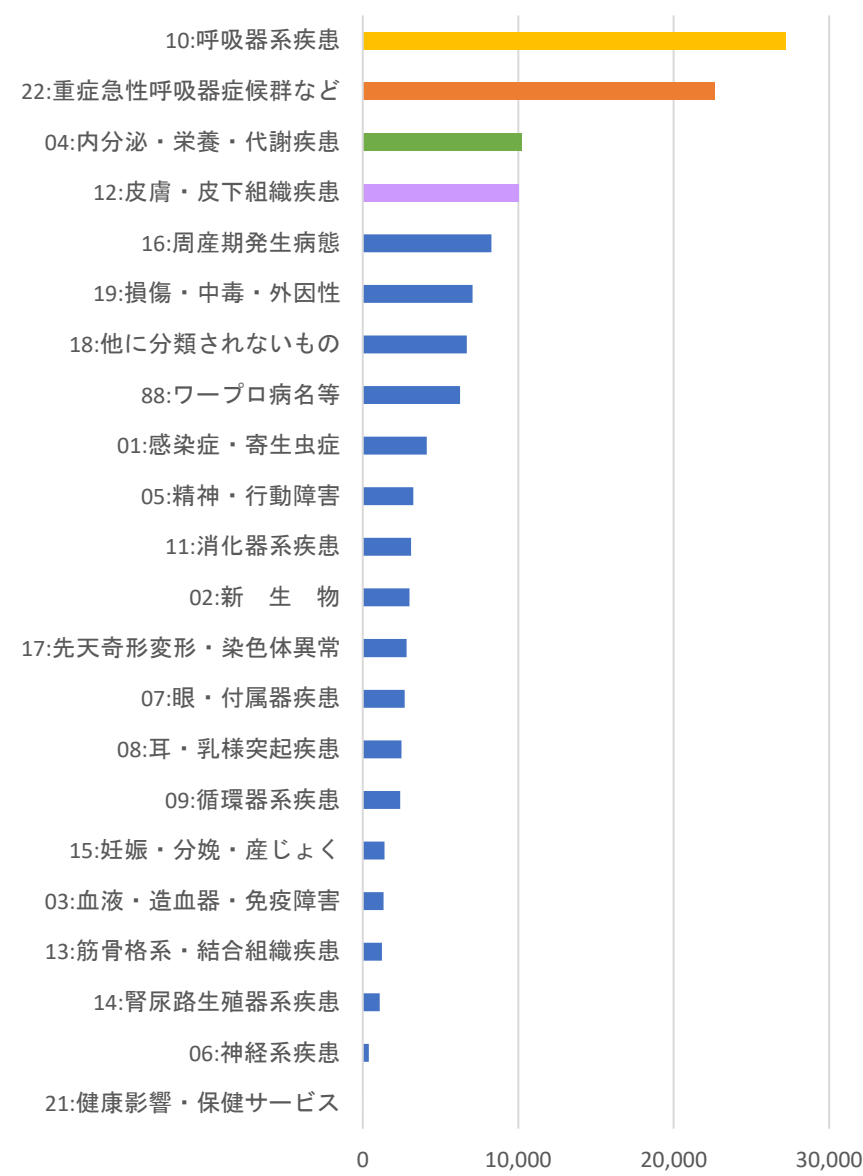
【腎尿路生殖器系疾患】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【乳房・女性性器疾患】【月経・閉経周辺期障害】【その他の腎尿路系疾患】が上位 3 位を占めます。

傷病別医療費割合（家族男性）

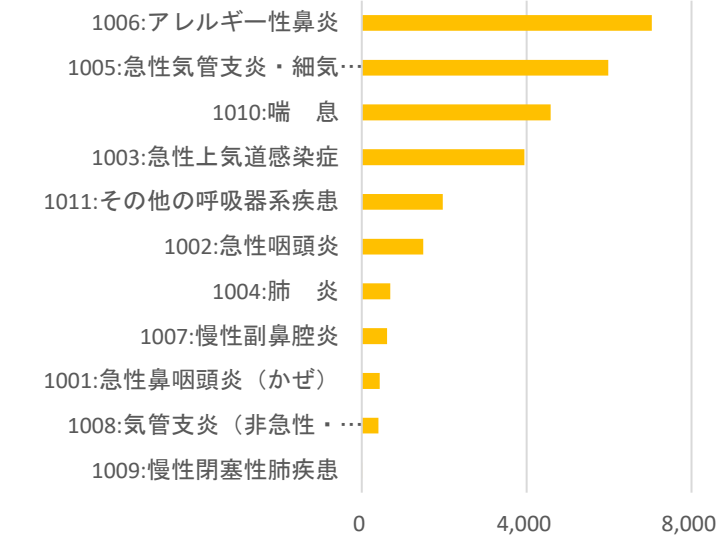
（単位：千円）

（グラフ集計期間：2022年度）

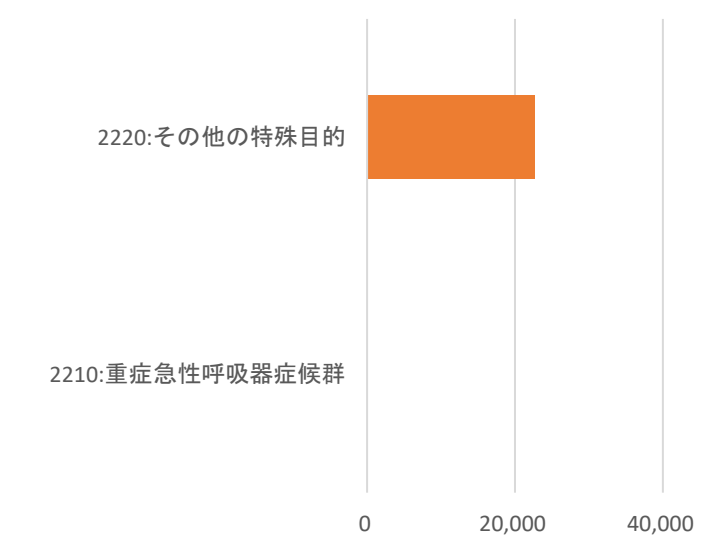
疾病 1 9 分類 医科医療費



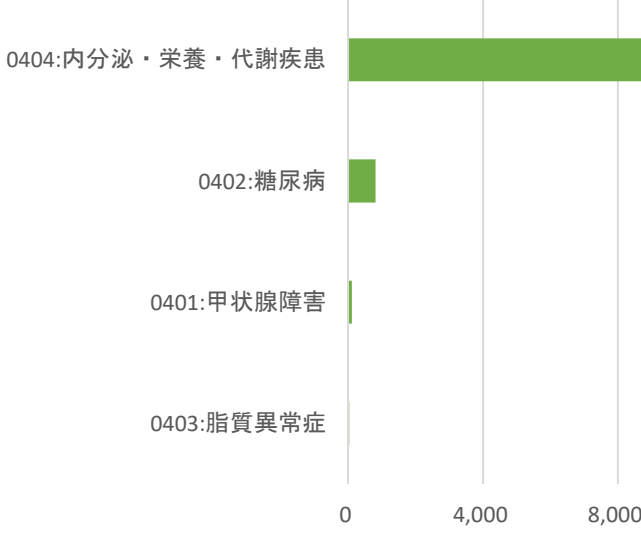
10:呼吸器系疾患



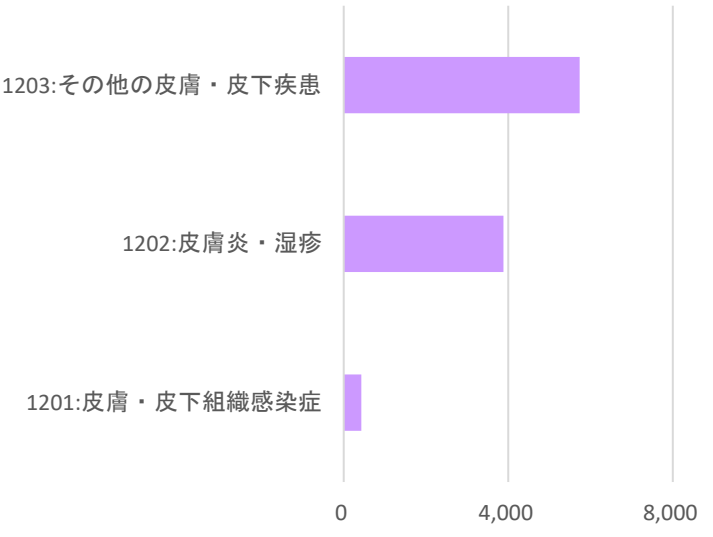
22:重症急性呼吸器症候群など



04:内分泌・栄養・代謝疾患



12:皮膚・皮下組織疾患

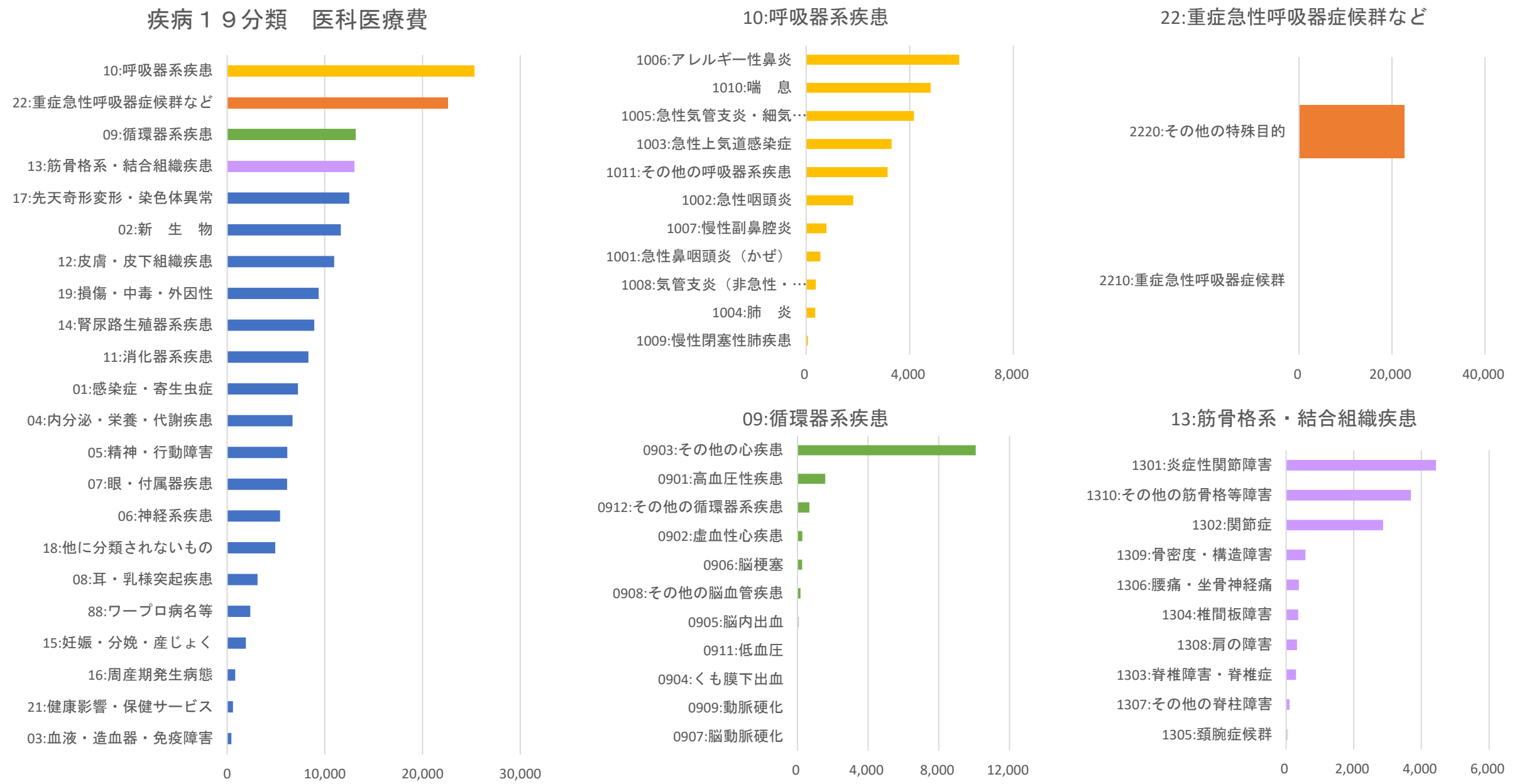


家族男性を疾病 1 9 分類で見ると、【呼吸器系疾患】【重症急性呼吸器症候群など】【内分泌・栄養・代謝疾患】【皮膚・皮下組織疾患】の割合が高いです。
【呼吸器系疾患】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【アレルギー性鼻炎】【急性気管支炎・細気管支炎】【喘息】が上位 3 位を占めます。
【重症急性呼吸器症候群など】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【その他の特殊目的】が全てを占めます。
【内分泌・栄養・代謝疾患】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【内分泌・栄養・代謝疾患】【糖尿病】【甲状腺障害】が上位 3 位を占めます。
【皮膚・皮下組織疾患】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【その他の皮膚・皮下疾患】【皮膚炎・湿疹】【皮膚・皮下組織感染症】が上位 3 位を占めます。

傷病別医療費割合（家族女性）

（単位：千円）

（グラフ集計期間：2022年度）



家族女性を疾病 1 9 分類で見ると、【呼吸器系疾患】【重症急性呼吸器症候群など】【循環器系疾患】【筋骨格系・結合組織疾患】の割合が高いです。

【呼吸器系疾患】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【アレルギー性鼻炎】【喘息】【急性気管支炎・細気管支炎】が上位 3 位を占めます。

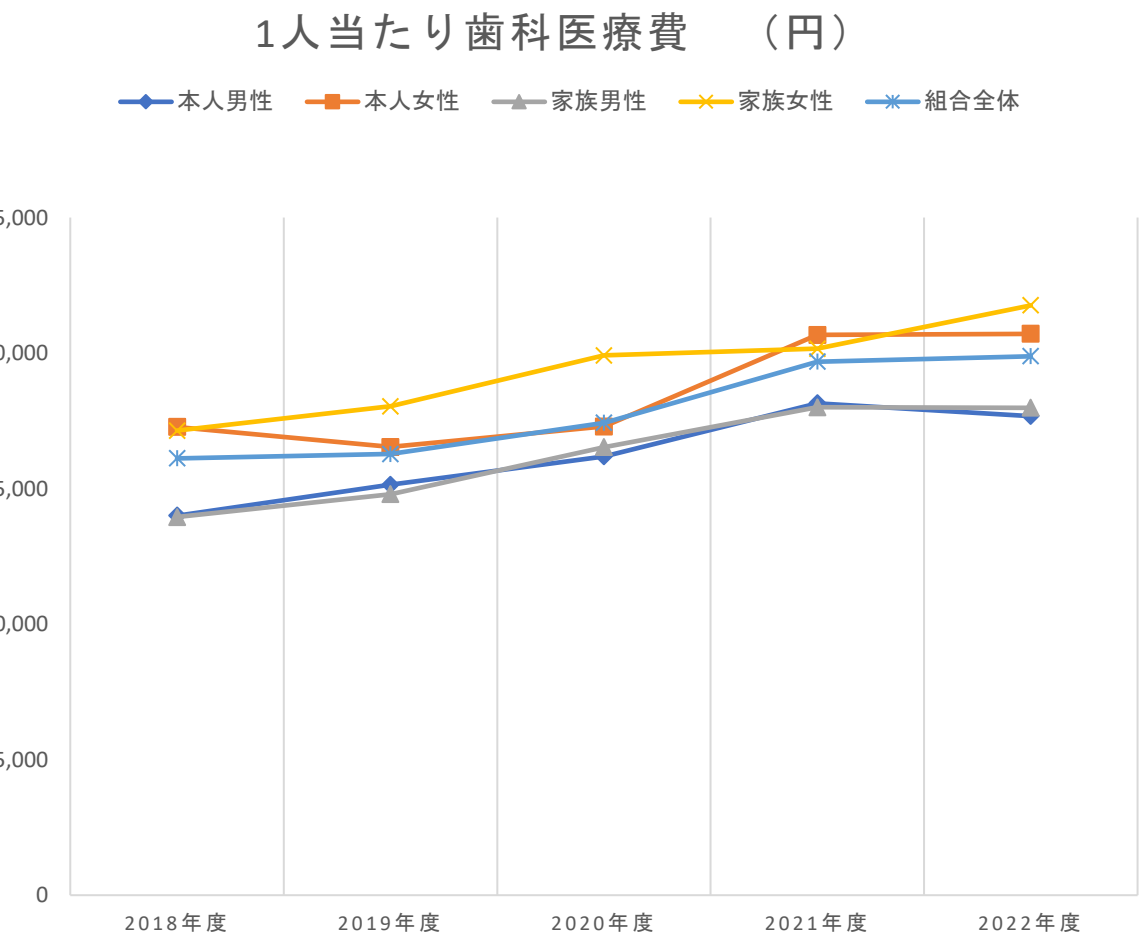
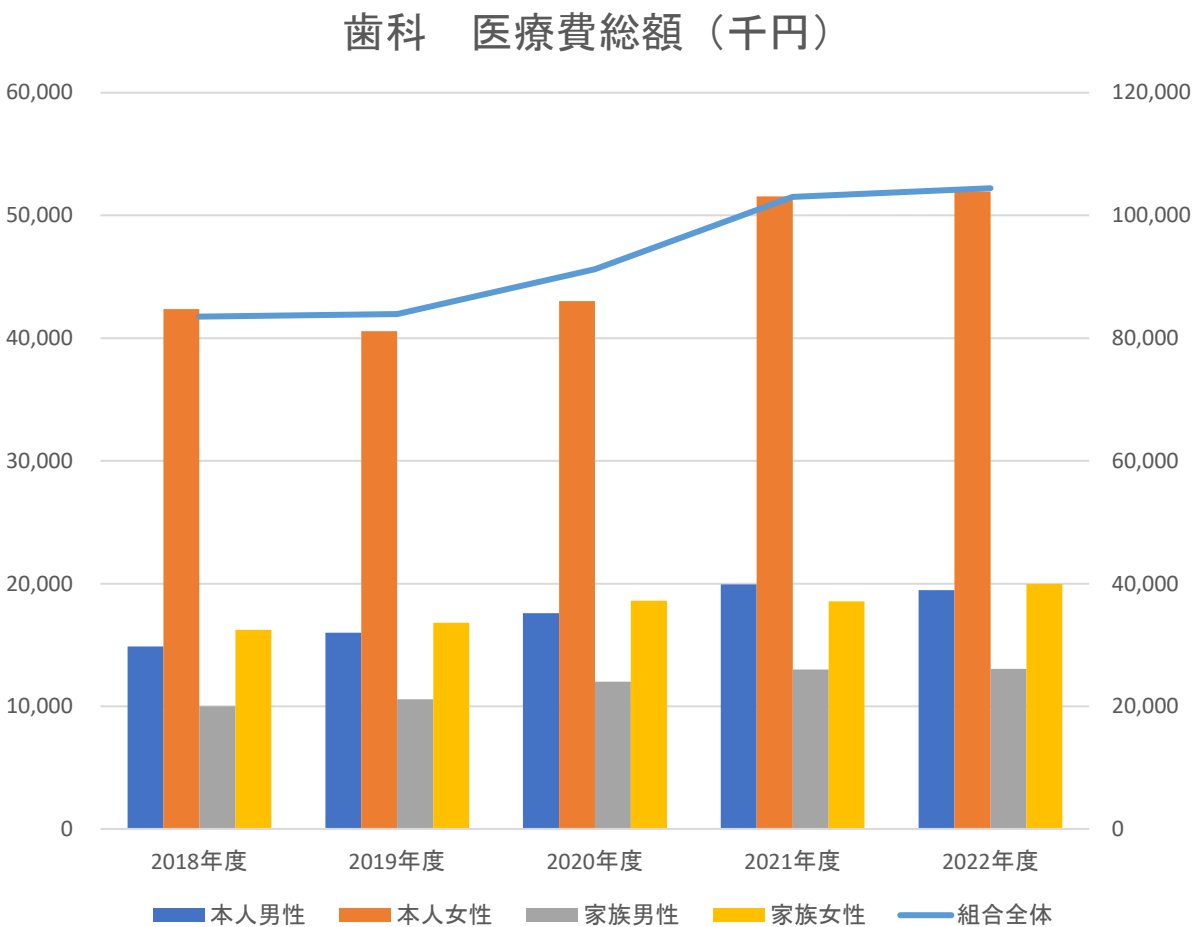
【重症急性呼吸器症候群など】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【その他の特殊目的】が全てを占めます。

【循環器系疾患】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【その他の心疾患】【高血圧性疾患】【その他の循環器系疾患】が上位 3 位を占めます。

【筋骨格系・結合組織疾患】を疾病 1 1 9 分類で見ると、【炎症性関節障害】【その他の筋骨格等障害】【関節症】が上位 3 位を占めます。

歯科 医療費総額と1人当たり医療費

(グラフ集計期間：2018～2022年度)
(1人当たり医療費：2018～2022年度)



組合全体を見ると、医療費総額・1人当たり医療費ともに増加傾向にあります。

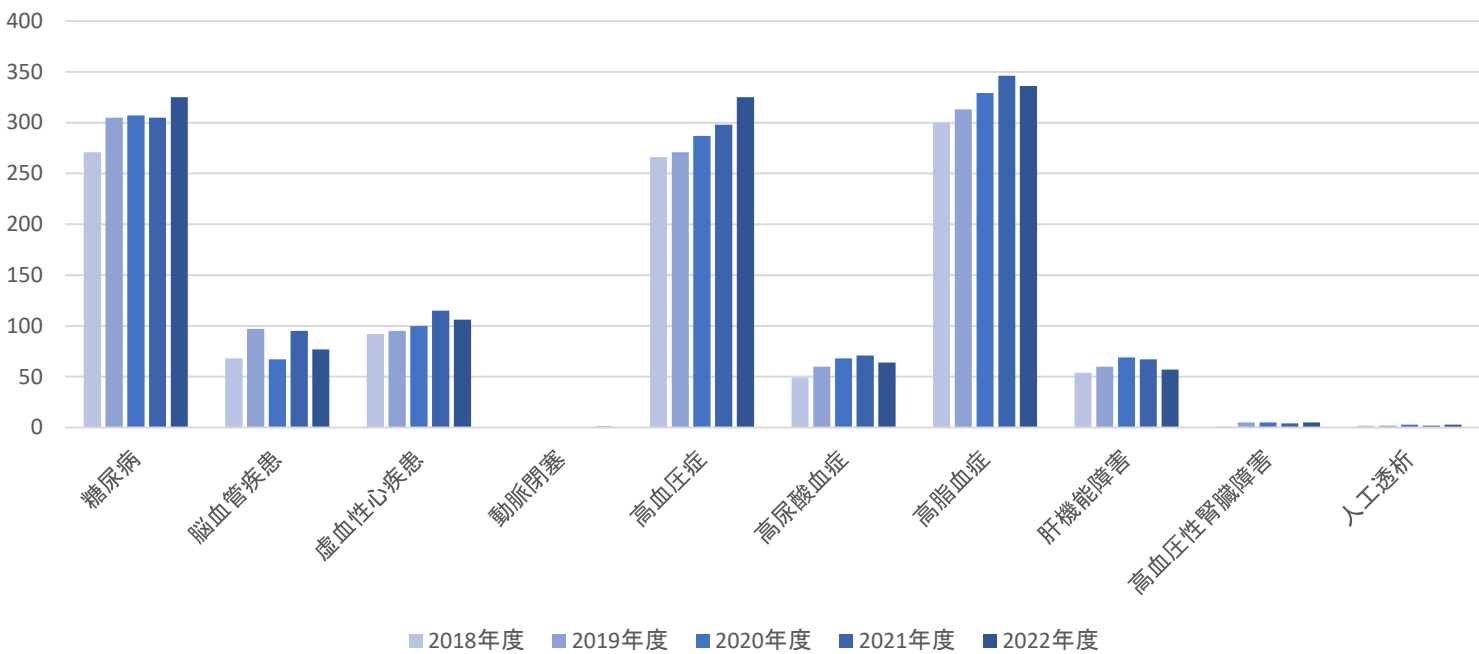
本人家族・男女別に見ると、いずれも医療費総額・1人当たり医療費ともに増加傾向にあります。

比較的、家族の方が増加傾向が強いです。

生活習慣病 有病者数と医療費推移 (組合全体)

(グラフ集計期間：2018～2022年度 歯科除く)

生活習慣病 有病者数推移 ※疑い傷病含む (人)



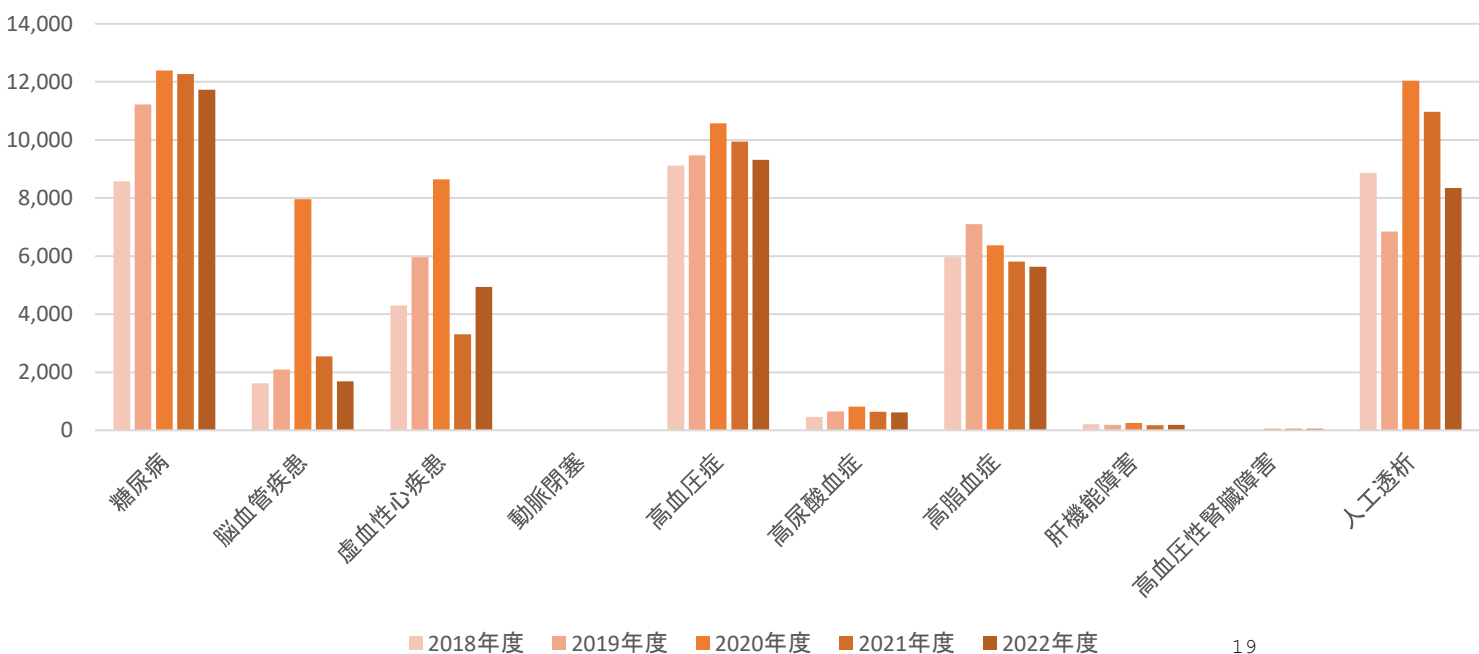
【糖尿病】、【高血圧症】、【高脂血症】は、有病者数が増加傾向にあり、医療費も大きな割合を占めます。

【虚血性心疾患】は、有病者数が緩やかな増加傾向にあり、医療費の割合もやや大きいです。

【高尿酸血症】、【肝機能障害】は、有病者数に対して、医療費が軽い傾向にあります。

【人工透析】は、有病者数に対して、医療費が極めて嵩む傾向にあります。

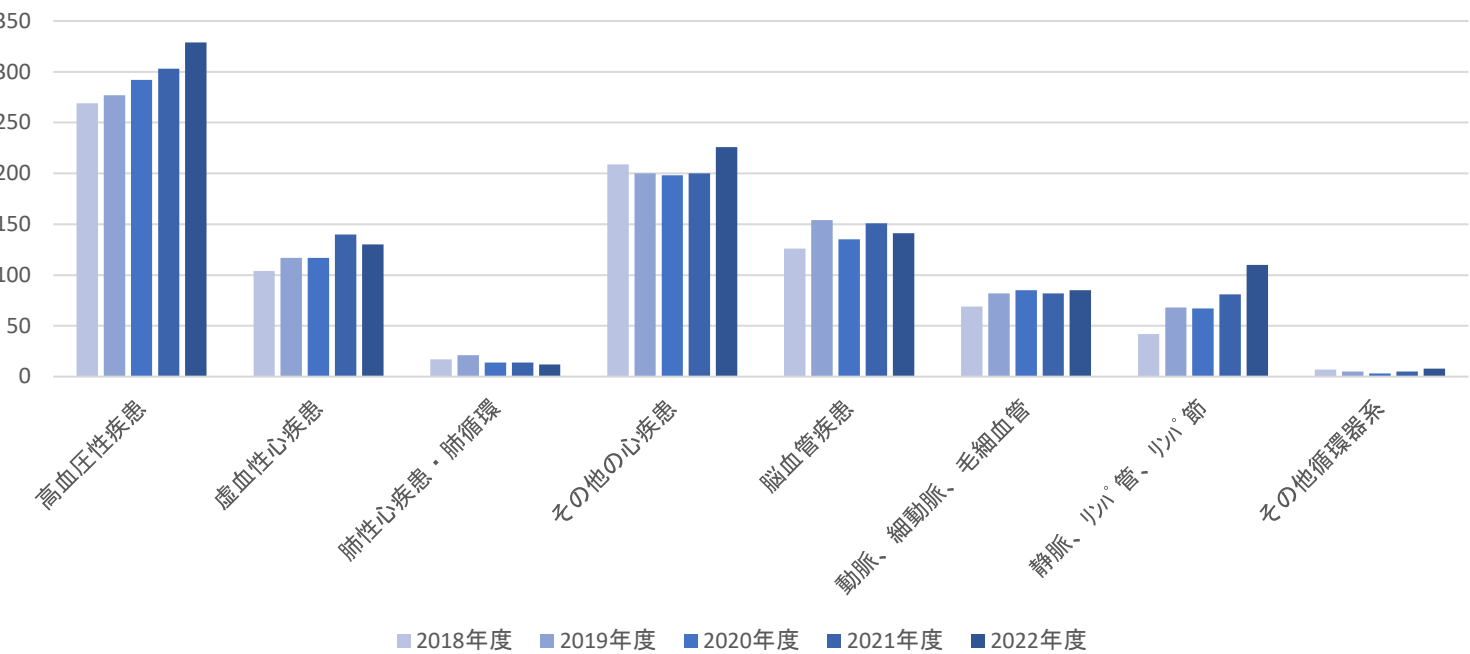
生活習慣病 医療費推移 ※疑い傷病含む (千円)



循環器系疾患 有病者数と医療費推移 (組合全体)

(グラフ集計期間：2018～2022年度 歯科除く)

循環器系疾患 有病者数推移 ※疑い傷病含む (人)



【高血圧性疾患】は、有病者数の増加傾向が強いですが、医療費はほぼ横ばいです。

【虚血性心疾患】は、有病者数と医療費が増加傾向にあります。

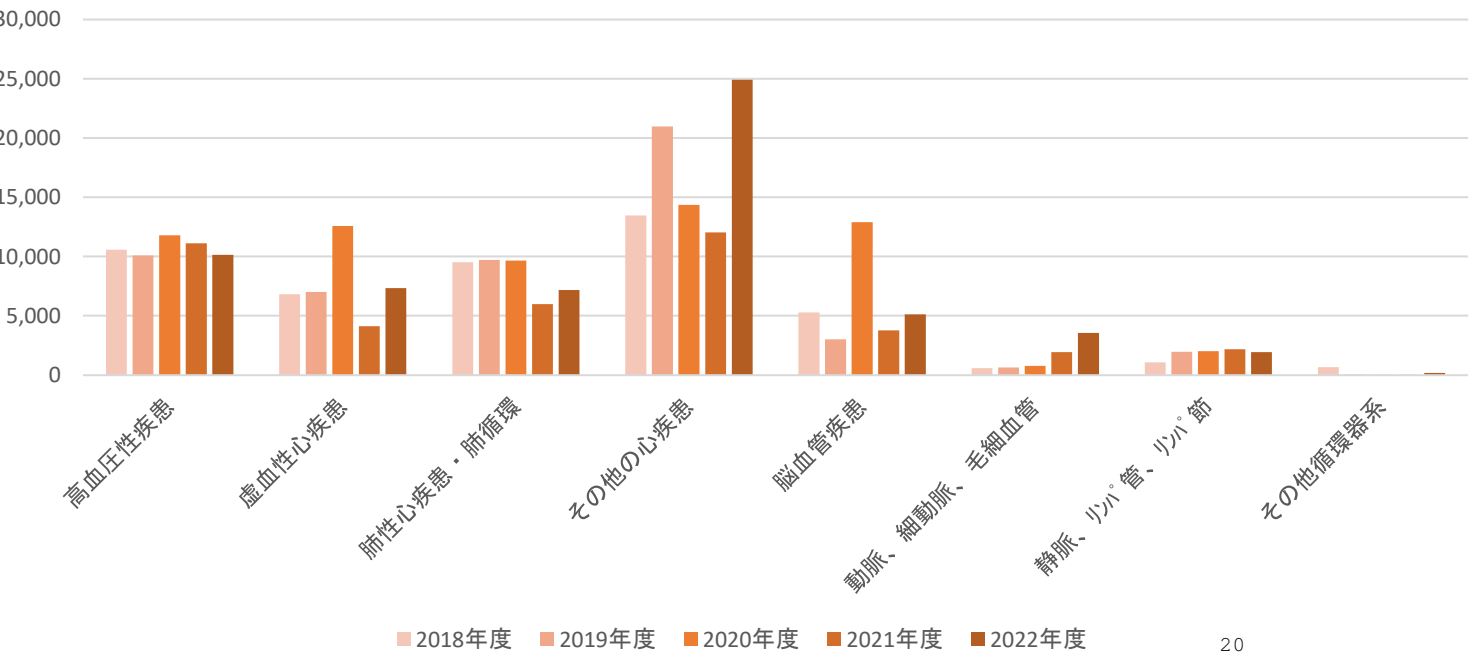
【肺性心疾患・肺循環】は、有病者数に対して、医療費が嵩む傾向があります。

【その他の心疾患】は、有病者数がやや増加傾向にあります。

【脳血管疾患】は、有病者数に対して、医療費がやや軽い傾向があります。

【動脈、細動脈、毛細血管】と【静脈、リンパ管、リンパ節】は、有病者数に対して、医療費が軽い傾向があります。

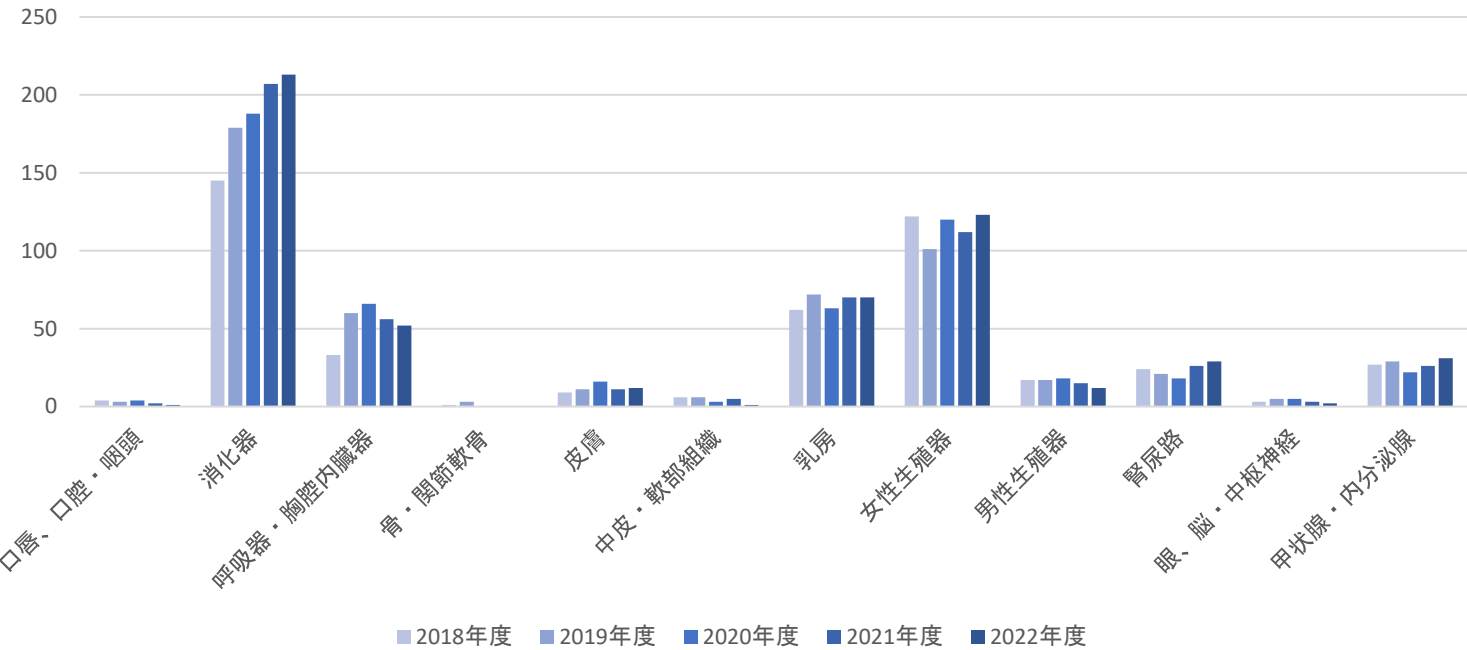
循環器系疾患 医療費推移 ※疑い傷病含む (千円)



悪性新生物 有病者数と医療費推移 (組合全体)

(グラフ集計期間：2018～2022年度 歯科除く)

悪性新生物 有病者数推移 ※疑い傷病含む (人)



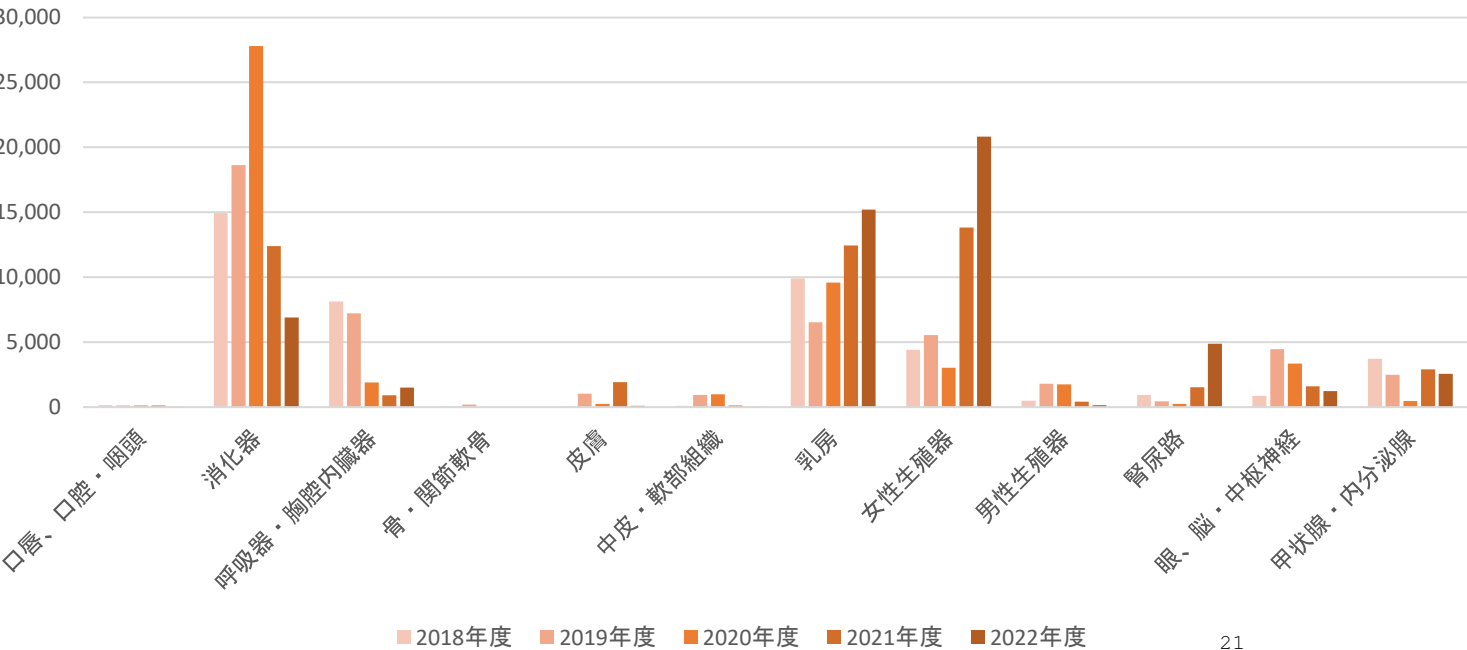
【消化器】は、有病者数の増加傾向が強いですが、医療費は減少傾向にあります。

【呼吸器・胸腔内臓器】は、有病者数に対して、医療費が軽い傾向にあります。

【乳房】と【女性生殖器】は、有病者数が横ばいか微増なのに対して、医療費の増加傾向が強いです。

【腎尿路】と【甲状腺・内分泌腺】は、有病者数に若干増加の傾向があります。

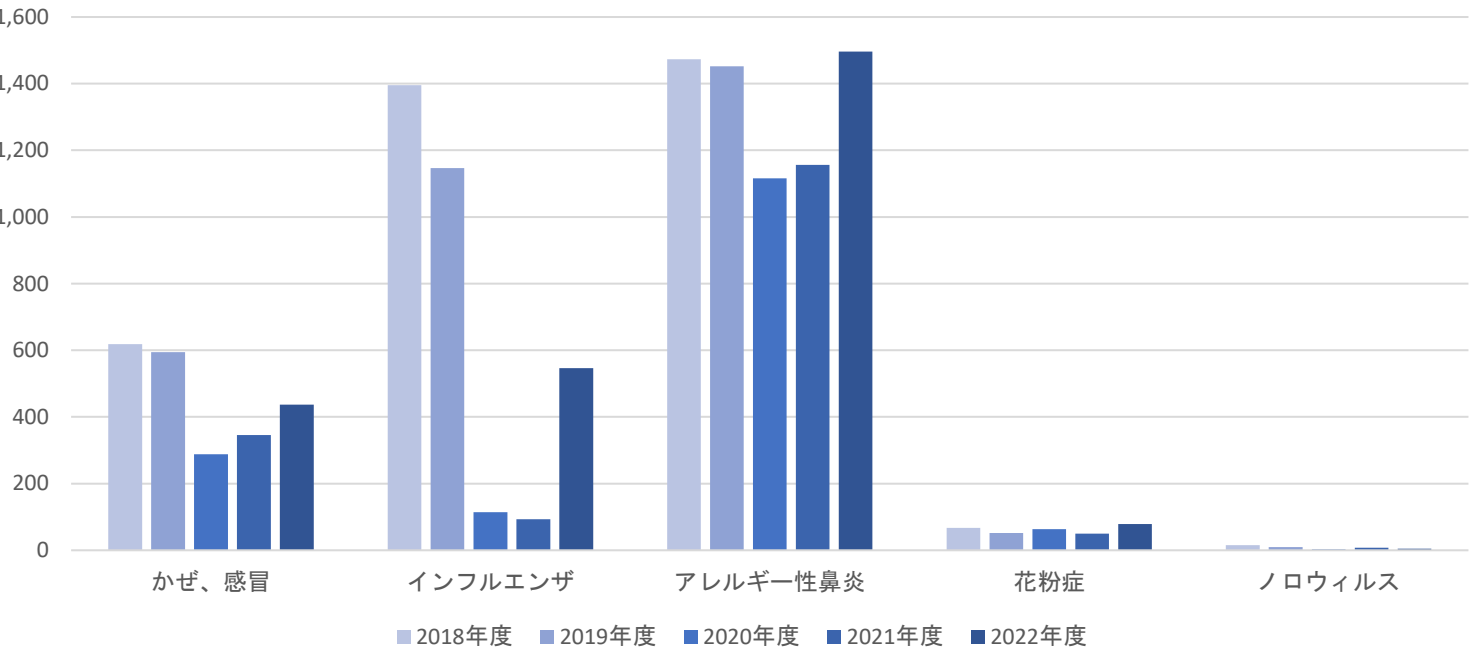
悪性新生物 医療費推移 ※疑い傷病含む (千円)



季節性疾患 有病者数と医療費推移 (組合全体)

(グラフ集計期間：2018～2022年度 歯科除く)

季節性疾患 有病者数推移 ※疑い傷病含む (人)

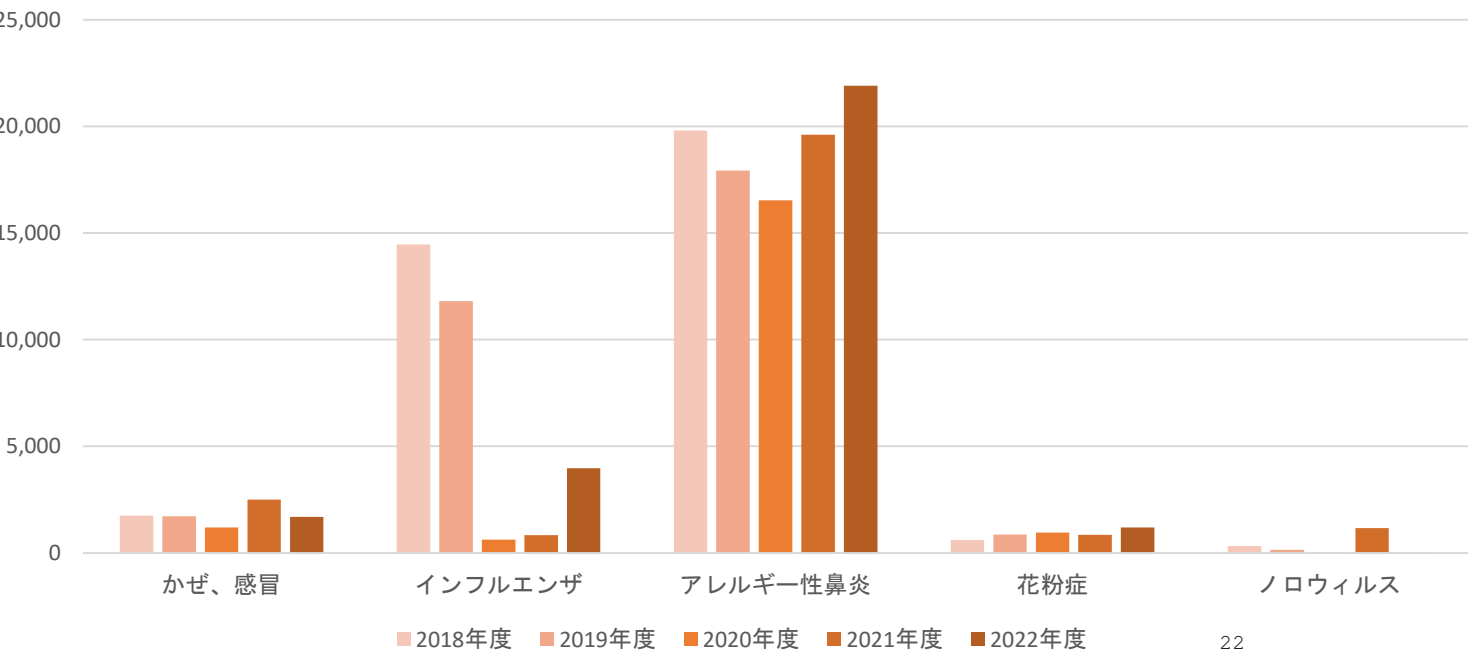


【かぜ、感冒】は、有病者数に対して医療費が軽い傾向があります。

【インフルエンザ】は、有病者数と医療費ともに、2020年度から激減しましたが、2022年度に大きく増加しています。

【アレルギー性鼻炎】は、有病者数と医療費ともに増加傾向、かつ、季節性疾患で最も大きな割合を占めます。

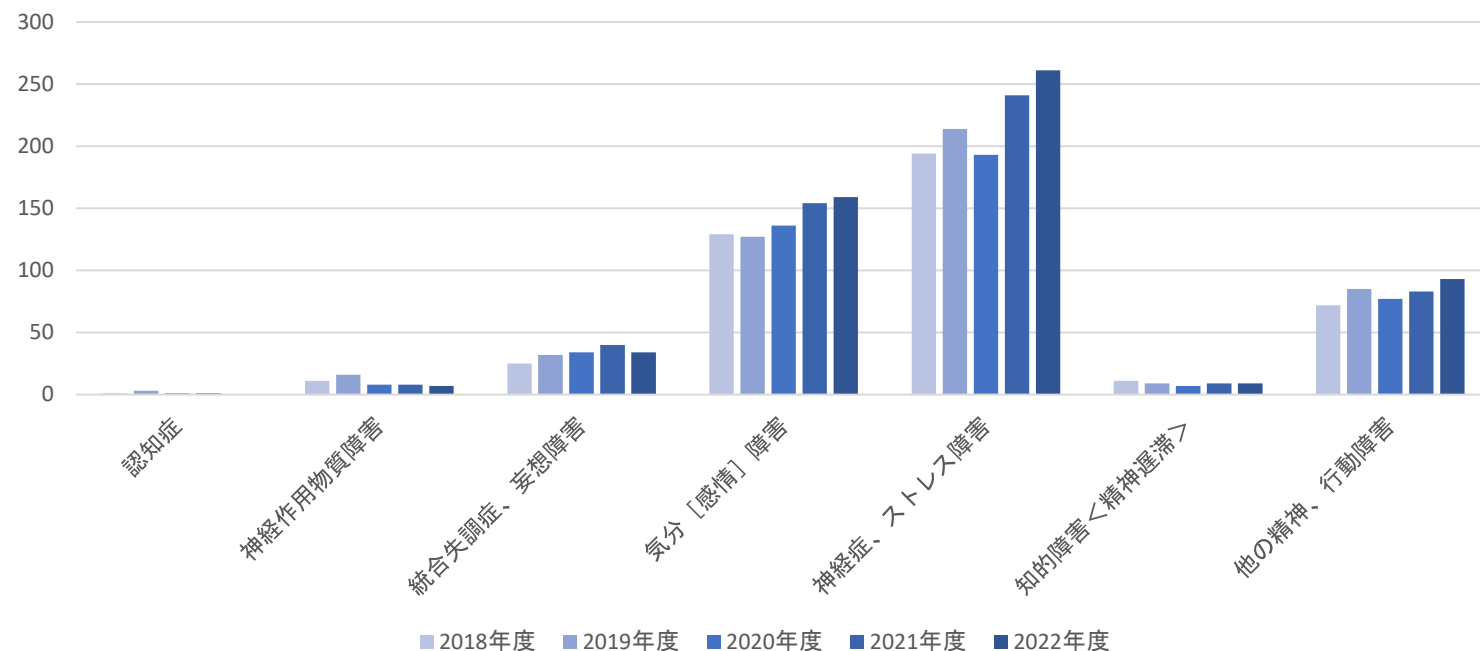
季節性疾患 医療費推移 ※疑い傷病含む (千円)



メンタル系疾患 有病者数と医療費推移 (組合全体)

(グラフ集計期間：2018～2022年度 歯科除く)

メンタル系疾患 有病者数推移 ※疑い傷病含む (人)



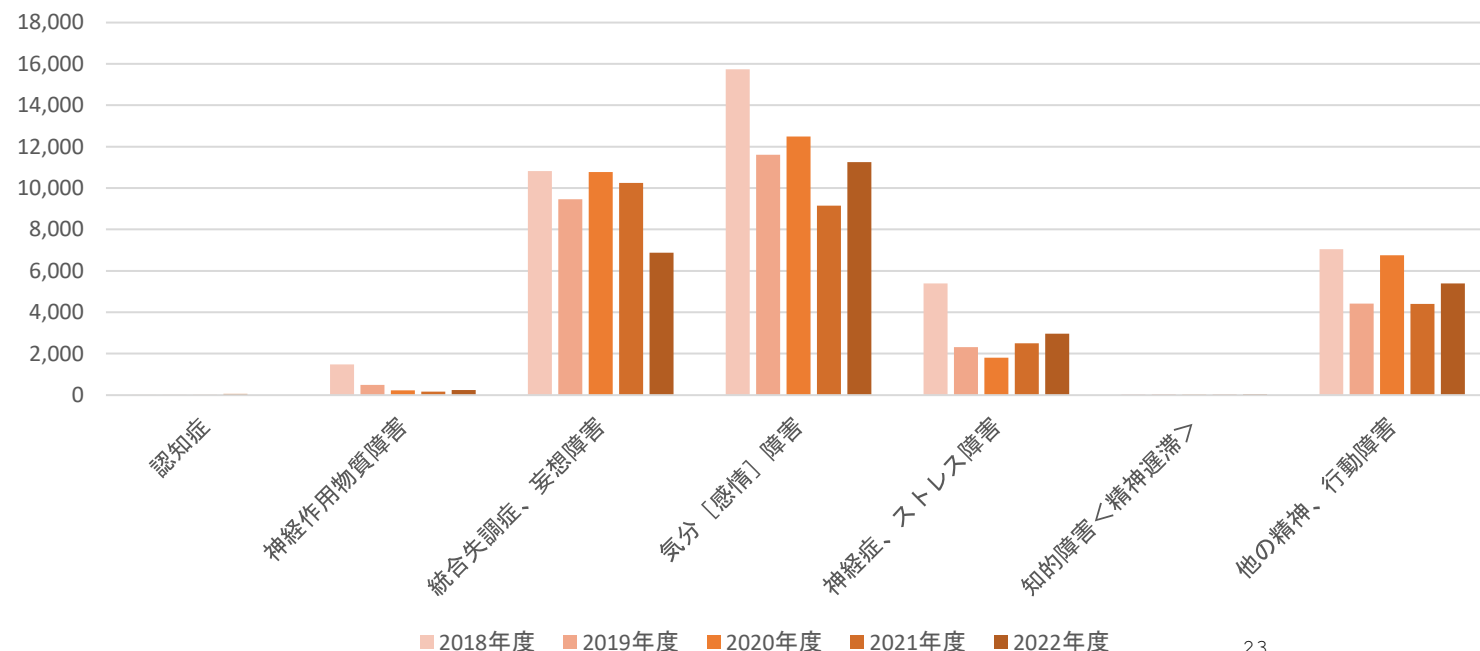
【統合失調症、妄想障害】は、有病者数に対して医療費が嵩む傾向が強いです。

【気分〔感情〕障害】は、有病者数が緩やかな増加傾向にあり、医療費割合が大きいです。

【神経症、ストレス障害】は、有病者数の増加傾向がやや強く、メンタル系疾患における人数割合も大きいですが、医療費は軽い傾向にあります。

【他の精神、行動障害】は、有病者数が増加傾向にあります。

メンタル系疾患 医療費推移 ※疑い傷病含む (千円)



STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア, イ, ウ, エ, オ, カ	本人男性、本人女性とも増加傾向にあり、特に本人女性の増加傾向が強い。 本人男性は、生活習慣やストレスに由来する循環器系疾病や内分泌・栄養・代謝疾患の割合が目立つ。 本人女性は、20代の加入者がひときわ多く、伴って医療費も嵩んでいる。 また、女性特有の新生物、乳房・女性性器疾患、月経・閉経周辺障害による医療費割合が大きい。	➡	特定保健指導対象者への個別勧奨を行う。 就業時間中に指導を受けることのできる環境づくりを事業所に継続して求める。 従来の子宮頸がん検診と乳がん検診に加えて、婦人科内診の導入も検討する。 婦人系疾患の相談窓口設置を検討する。	✓
2	ア, イ, ウ, エ, キ, ク	男女とも緩やかな増加傾向にある。 特定健診受診率、特定保健指導実施率が極めて低い。 医療費の割合では、呼吸器系疾患、特にアレルギー性鼻炎、急性気管支炎・細気管支炎、喘息が目立つ。	➡	被扶養者のうち、勤務先での健診結果(異なる健診種別でも必須項目を満たしていれば登録は可能)の提出依頼を検討する。 提出依頼においては、提出者へのインセンティブ付与も視野に入れる。 特定保健指導対象者への個別勧奨を行う。 HPや健保ニュースを通して、日々の健康づくりや免疫力向上を目指した情報発信を積極的に実施する。	✓
3	ケ	全体的に増加傾向にある。	➡	健保連福岡連合会が出資する健康サポート事業「Dケア30」への参加を継続する。 歯科検診の費用補助導入を検討する。	
4	コ, サ	【糖尿病】、【高血圧症】、【高脂血症】は、有病者数が増加傾向にあり、医療費も大きな割合を占める。 【高血圧性疾患】は、有病者数の増加傾向が強い。 【肺性心疾患・肺循環】は、有病者数に対して、医療費が嵩む傾向がある。	➡	特定健診の受診率向上、特定保健指導の実施率向上を目指す。 中～長期的な運動促進プログラムを企画する。 HPや健保ニュースを通して、塩分や脂質を控えらる簡単なレシピが市販食品といった食に関する情報や、睡眠時間確保の重要性などを継続的に発信する。	✓
5	シ	【乳房】と【女性生殖器】は、有病者数が横ばいか微増なのに対して、医療費の増加傾向が強い。	➡	子宮頸がん検診・乳がん検診の受診勧奨を行う。 乳がんの自己検診の実習会をWeb・動画配信など聴講しやすい形式での実施を検討する。	✓
6	ス	【インフルエンザ】は、有病者数と医療費ともに、2020年度から激減したが、2022年度に大きく増加している。 【アレルギー性鼻炎】は、有病者数と医療費ともに増加傾向、かつ、季節性疾患で最も大きな割合を占める。	➡	インフルエンザ予防接種を推奨する。 流行期前に、HPや健保ニュースを通して、家庭での感染予防や免疫力向上をテーマにした情報発信を強化する。	
7	セ	【統合失調症、妄想障害】は、有病者数に対して医療費が嵩む傾向が強い。 【気分〔感情〕障害】は、有病者数が緩やかな増加傾向にあり、医療費割合が大きい。	➡	メンタルヘルス・カウンセリングの外部相談窓口の設置を検討する。 外部カウンセラーによる定期的な巡回実施を事業所に求める。	✓

基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	被保険者の約70%が、女性である。 全被保険者の約60%以上が、若年成人世代にあたる。 健康保険組合では、顧問医や保健師等を擁していない。	➡	女性の比率が非常に高いので、女性特有の疾病に焦点を当てる必要がある。 特定健診の対象とならない被保険者向けの事業を検討する必要がある。 事業所が擁する産業医や保健師等との連携を強化していく必要がある。

保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	被扶養者における特定健診の受診率が非常に低い結果となっている。 子宮頸がん健診や乳がん検診の受診率が非常に低い結果となっている。	➡	所属医療機関に限らず、女性専用クリニックの紹介・受診しやすい制度づくりを検討する必要がある。

STEP 3 保健事業の実施計画

事業全体の目的 被保険者の特定保健指導実施率および被扶養者の特定健診受検率を向上させ、生活習慣病の改善、その他疾病に対して早期発見・治療することを目的とする	事業全体の目標 被保険者の特定保健指導実施率および被扶養者の特定健診受診率を向上
--	--

事業の一覧

職場環境の整備	
加入者への意識づけ	
個別の事業	
特定健康診査事業	特定健診（被保険者）
特定健康診査事業	特定健診（被扶養者）
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	被扶養者特定健康診査アンケート
疾病予防	生活習慣病予防健診（35歳～39歳）
疾病予防	付加健診
疾病予防	子宮頸がん健診
疾病予防	乳がん検診
予算措置なし	ホームページ更新
予算措置なし	Webジェネリック差額通知

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予 算 科 目	注1) 事業 分類	新 規 既 存	事業名	対象者				注2) 実施 主体	注3) プロセス 分類	実施方法	注4) ストラク チャー 分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連						
				対象 事業所	性別	年 齢	対象者						実施計画													
													令和6年度		令和7年度		令和8年度				令和9年度		令和10年度		令和11年度	
アウトプット指標													アウトカム指標													
職場環境の整備																										
加入者への意識づけ																										
個別の事業																										
特定健康 診 査 事 業	3	既 存 （ 法 定 ）	特定健診（被 保険者）	全て	男女	40 ～ 74	被保険 者	1	ク,ケ	-	ア	-	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	特定健診の受診率向上、被保険者の健康維持		本人男性、本人女性とも増加傾向 にあり、特に本人女性の増加傾向 が強い。 本人男性は、生活習慣やストレス に由来する循環器系疾病や内分泌 ・栄養・代謝疾患の割合が目立つ 。 本人女性は、20代の加入者がひと きわ多く、伴って医療費も嵩んで いる。 また、女性特有の新生物、乳房・ 女性性器疾患、月経・閉経周辺期 障害による医療費割合が大きい。					
																						【糖尿病】、【高血圧症】、【高 脂血症】は、有病者数が増加傾向 にあり、医療費も大きな割合を占 める。 【高血圧性疾患】は、有病者数の 増加傾向が強い。 【肺性心疾患・肺循環】は、有病 者数に対して、医療費が嵩む傾向 がある。				
特定健診受診率(【実績値】95.8% 【目標値】令和6年度：95% 令和7年度：95% 令和8年度：95% 令和9年度：95% 令和10年度：95% 令和11年度：95%)-													特定保健指導レベルの悪化率(【実績値】1% 【目標値】令和6年度：1% 令和7年度：1% 令和8年度：1% 令和9年度：1% 令和10年度：1% 令和11年度：1%)-													
	3	既 存 （ 法 定 ）	特定健診（被 扶養者）	全て	男女	40 ～ 74	被扶養 者	1	ク,ケ	-	ア	-	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	特定健診の受診率向上、被扶養者の健康維持		男女とも緩やかな増加傾向にある 。 特定健診受診率、特定保健指導実 施率が極めて低い。 医療費の割合では、呼吸器系疾患 、特にアレルギー性鼻炎、急性気 管支炎・細気管支炎、喘息が目立 つ。					
																						【糖尿病】、【高血圧症】、【高 脂血症】は、有病者数が増加傾向 にあり、医療費も大きな割合を占 める。 【高血圧性疾患】は、有病者数の 増加傾向が強い。 【肺性心疾患・肺循環】は、有病 者数に対して、医療費が嵩む傾向 がある。				
特定健診受診率(【実績値】16.7% 【目標値】令和6年度：19.3% 令和7年度：21.9% 令和8年度：24.5% 令和9年度：27.1% 令和10年度：29.7% 令和11年度：32.3%)毎年度5人以上の受診者増													特定保健指導レベルの悪化率(【実績値】1% 【目標値】令和6年度：1% 令和7年度：1% 令和8年度：1% 令和9年度：1% 令和10年度：1% 令和11年度：1%)-													
													-	-	-	-	-	-	-							

予算科目	注1) 事業分類	新規 既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連				
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画											
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度						
													アウトプット指標						アウトカム指標					
特定保健指導事業	4	既存（法定）	特定保健指導	全て	男女	40～74	基準該当者	1	ク,サ	-	ア	-	第2期データヘルス計画から継続して実施	第2期データヘルス計画から継続して実施	第2期データヘルス計画から継続して実施	第2期データヘルス計画から継続して実施	第2期データヘルス計画から継続して実施	第2期データヘルス計画から継続して実施	特定保健指導実施率の向上、生活習慣病有病者・予備軍の減少。	本人男性、本人女性とも増加傾向にあり、特に本人女性の増加傾向が強い。 本人男性は、生活習慣やストレスに由来する循環器系疾病や内分泌・栄養・代謝疾患の割合が目立つ。 本人女性は、20代の加入者がひときわ多く、伴って医療費も嵩んでいる。 また、女性特有の新生物、乳房・女性性器疾患、月経・閉経周辺期障害による医療費割合が大きい。 男女とも緩やかな増加傾向にある。				
特定保健指導実施率(【実績値】52.8% 【目標値】令和6年度：54.3% 令和7年度：55.9% 令和8年度：57.5% 令和9年度：59.1% 令和10年度：60.6% 令和11年度：62.2%)-													特定保健指導レベルの改善率(【実績値】1% 【目標値】令和6年度：1% 令和7年度：1% 令和8年度：1% 令和9年度：1% 令和10年度：1% 令和11年度：1%)-											
保健指導宣伝	2	既存	被扶養者特定健康診査アンケート	全て	男女	40～74	基準該当者	1	ク,ケ	-	ア	-	第2期データヘルス計画から継続して実施	第2期データヘルス計画から継続して実施	第2期データヘルス計画から継続して実施	第2期データヘルス計画から継続して実施	第2期データヘルス計画から継続して実施	第2期データヘルス計画から継続して実施	被扶養者へアンケート調査を実施することで、特定健診に対する被扶養者の実態を把握し、今後の受検率向上に生かす。	男女とも緩やかな増加傾向にある。 特定健診受診率、特定保健指導実施率が極めて低い。 医療費の割合では、呼吸器系疾患、特にアレルギー性鼻炎、急性気管支炎・細気管支炎、喘息が目立つ。				
受検率(【実績値】- 【目標値】令和6年度：1% 令和7年度：1% 令和8年度：1% 令和9年度：1% 令和10年度：1% 令和11年度：1%)-													加入者の意識向上を目的としており、その成果は具体的な数値として把握することが困難な為(アウトカムは設定されていません)											
疾病予防	3	既存（法定）	生活習慣病予防健診（35歳～39歳）	全て	男女	35～39	被保険者	1	ク,ケ	-	ア	-	第2期データヘルス計画から継続して実施	第2期データヘルス計画から継続して実施	第2期データヘルス計画から継続して実施	第2期データヘルス計画から継続して実施	第2期データヘルス計画から継続して実施	第2期データヘルス計画から継続して実施	胃部や大腸の疾病に対して、早期発見・治療を目指す。	【糖尿病】、【高血圧症】、【高脂血症】は、有病者数が増加傾向にあり、医療費も大きな割合を占める。 【高血圧性疾患】は、有病者数の増加傾向が強い。 【肺性心疾患・肺循環】は、有病者数に対して、医療費が嵩む傾向がある。				
受診率(【実績値】91.1% 【目標値】令和6年度：92% 令和7年度：92% 令和8年度：92% 令和9年度：92% 令和10年度：92% 令和11年度：92%)-													有病者数割合(【実績値】21.9% 【目標値】令和6年度：22% 令和7年度：22% 令和8年度：22% 令和9年度：22% 令和10年度：22% 令和11年度：22%)35歳～39歳の被保険者における有病者数の割合											
													-	-	-	-	-	-						

予 算 科 目	注1) 事業 分類	新 規 既 存	事業名	対象者				注2) 実施 主体	注3) プロセス 分類	実施方法	注4) ストラク チャー 分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連					
													実施計画												
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度							
アウトプット指標													アウトカム指標												
3	既存		付加健診	全て	男女	40 ～ 70	被保険 者	1	ク	40歳・45歳・50歳・55歳 ・60歳・65歳・70歳の年 度を対象する	ア	-	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	年齢に応じて健診を実施し、定期的な健康 状況の把握を行うことにより、重症化予防 を行う。	本人男性、本人女性とも増加傾向 にあり、特に本人女性の増加傾向 が強い。 本人男性は、生活習慣やストレス に由来する循環器系疾病や内分泌 ・栄養・代謝疾患の割合が目立つ 。 本人女性は、20代の加入者がひと きわ多く、伴って医療費も嵩んで いる。 また、女性特有の新生物、乳房・ 女性性器疾患、月経・閉経周辺期 障害による医療費割合が大きい。					
受診者数(【実績値】101人　【目標値】令和6年度：120人　令和7年度：120人　令和8年度：120人　令和9年度：120人　令和10年度：120人　令和11年度：120人)-													付加健診を実施する目的が特定健診などの保険事業重複するため、ここには指標を設定しない。 (アウトカムは設定されていません)												
3	既存		子宮頸がん健 診	全て	女性	20 ～ 74	被保険 者	1	ウ,ク	-	ア	-	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	女性が多い職場の為、女性特有の子宮頸がん に注目し早期発見・治療による重症化予 防を行う。	本人男性、本人女性とも増加傾向 にあり、特に本人女性の増加傾向 が強い。 本人男性は、生活習慣やストレス に由来する循環器系疾病や内分泌 ・栄養・代謝疾患の割合が目立つ 。 本人女性は、20代の加入者がひと きわ多く、伴って医療費も嵩んで いる。 また、女性特有の新生物、乳房・ 女性性器疾患、月経・閉経周辺期 障害による医療費割合が大きい。					
受検率（20～74歳）(【実績値】17.3％　【目標値】令和6年度：18.5％　令和7年度：19.8％　令和8年度：21％　令和9年度：22.2％　令和10年度：23.5％　令和11年度：24.7％)毎年度30名以上の受検者増（他機関での受検実績を含む）													有病者数割合(【実績値】5.0％　【目標値】令和6年度：5.0％　令和7年度：5.0％　令和8年度：5.0％　令和9年度：5.0％　令和10年度：5.0％　令和11年度：5.0％)20歳～74歳の被保険者における有病者数の割合												
3	既存		乳がん検診	全て	女性	35 ～ 74	被保険 者	1	ウ,ク	-	ア	-	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	第2期データヘルス計画 から継続して実施	女性が多い職場の為、女性特有の乳がん に注目し早期発見・治療による重症化予防 を行う。	本人男性、本人女性とも増加傾向 にあり、特に本人女性の増加傾向 が強い。 本人男性は、生活習慣やストレス に由来する循環器系疾病や内分泌 ・栄養・代謝疾患の割合が目立つ 。 本人女性は、20代の加入者がひと きわ多く、伴って医療費も嵩んで いる。 また、女性特有の新生物、乳房・ 女性性器疾患、月経・閉経周辺期 障害による医療費割合が大きい。					
受検率（35～74歳）(【実績値】34.8％　【目標値】令和6年度：37.8％　令和7年度：40.8％　令和8年度：43.8％　令和9年度：46.8％　令和10年度：49.8％　令和11年度：52.8％)毎年度30名以上の受検者増（他機関での受検実績を含む）													有病者数割合(【実績値】6.7％　【目標値】令和6年度：7.0％　令和7年度：7.0％　令和8年度：7.0％　令和9年度：7.0％　令和10年度：7.0％　令和11年度：7.0％)35歳～74歳の被保険者における有病者数の割合												
													-	-	-	-	-	-							

予算科目	注1) 事業分類	新規 既存	事業名	対象者				注2) 実施 主体	注3) プロセス 分類	実施方法	注4) ストラク チャー 分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連				
				対象 事業所	性別	年 齢	対象者						実施計画											
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度						
													アウトプット指標						アウトカム指標					
予算 措置 なし	2,5	新規	ホームページ更新	全て	男女	0 ～ 74	加入者 全員	1	エ	-	ク	-	ホームページを構築し、 掲載するお知らせを随時 更新	ホームページに掲載する お知らせを随時更新	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	加入者へ情報提供を行うことで、加入者それぞれの健康意識の醸成、生活習慣病の重症化予防を図る。	全体的に増加傾向にある。 【インフルエンザ】は、有病者数と医療費ともに、2020年度から激減したが、2022年度に大きく増加している。 【アレルギー性鼻炎】は、有病者数と医療費ともに増加傾向、かつ、季節性疾患で最も大きな割合を占める。 【統合失調症、妄想障害】は、有病者数に対して医療費が高む傾向が強い。 【気分〔感情〕障害】は、有病者数が緩やかな増加傾向にあり、医療費割合が大きい。				
	周知率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)-													加入者の意識向上を目的としており、その成果は具体的な数値として把握することが困難な為 (アウトカムは設定されていません)										
	7	新規	Webジェネリック差額通知	全て	男女	0 ～ 74	加入者 全員	1	エ	-	ク	-	Web閲覧サイトを構築し、 毎月ジェネリック差額 通知情報をアップロード	毎月ジェネリック差額通知 情報をアップロード	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	ジェネリック使用率を向上させて調剤費の抑制を図る	本人男性、本人女性とも増加傾向にあり、特に本人女性の増加傾向が強い。 本人男性は、生活習慣やストレスに由来する循環器系疾病や内分泌・栄養・代謝疾患の割合が目立つ。 本人女性は、20代の加入者がひときわ多く、伴って医療費も嵩んでいる。 また、女性特有の新生物、乳房・女性性器疾患、月経・閉経周辺期障害による医療費割合が大きい。 男女とも緩やかな増加傾向にある。 。特定健診受診率、特定保健指導実施率が極めて低い。 医療費の割合では、呼吸器系疾患、特にアレルギー性鼻炎、急性気管支炎・細気管支炎、喘息が目立つ。				
アップロード回数(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：10回 令和7年度：12回 令和8年度：12回 令和9年度：12回 令和10年度：12回 令和11年度：12回)ジェネリック差額通知のアップロード回数													後発医薬品使用量割合(【実績値】 84.23% 【目標値】 令和6年度：85.53% 令和7年度：86.83% 令和8年度：88.13% 令和9年度：89.43% 令和10年度：90.73% 令和11年度：92.03%)毎年度1%の使用量割合増											

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業

注2) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業

注3) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認（要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況） ウ. 受診状況の確認（がん検診・歯科健診の受診状況） エ. ICTの活用 オ. 専門職による健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施 キ. 定量的な効果検証の実施
ク. 対象者の抽出（優先順位づけ、事業所の選定など） ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備） コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 就業時間内も実施可（事業主と合意） シ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 ス. その他

注4) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築 エ. 他の保険者との健診データの連携体制の構築 オ. 自治体との連携体制の構築 カ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 キ. 保険者協議会との連携体制の構築 ク. その他の団体との連携体制の構築
ケ. 保険者内の専門職の活用（共同設置保健師等を含む） コ. 運営マニュアルの整備（業務フローの整理） サ. 人材確保・教育（ケースカンファレンス／ライブラリーの設置） シ. その他